

## 2. 地域の将来像の検討

### 1) 地域の将来像の検討にあたって

地域の将来像の検討にあたっての『目標年次』、『対象圏域』及び『検討手法』を以下に示します。

#### 目標年次

既存の将来ビジョンの目標年次が概ね2010～2030年頃になっていることや、空港計画には中長期的な視点が必要なこと、また、福岡空港の将来需要予測は2030年頃まで行われることを考慮して、地域の将来像の検討における目標年次は概ね**2030年頃まで**と想定しました。

なお、この間に起こり得る航空機の技術革新や、想定し得る道州制など社会構造の変革については、ここではその革新や変革を前提にするまでには至っていません。

#### 対象圏域

地域の将来像を検討するにあたって、対象圏域の設定は重要です。しかしながら、ボーダレス化の時代に境界を明確化することに大きな意味がある訳ではなく、本章では、将来の東アジア及び日本の中で、福岡・九州の地域や都市としての位置づけを想定しながら地域の将来像を検討します。

◆東アジア・日本・九州の中での福岡都市圏 ◆東アジア・日本の中での九州

#### 将来像の検討手法

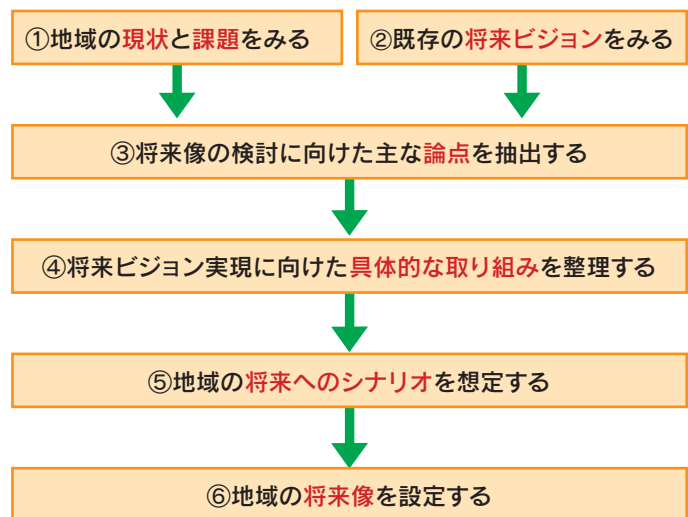
地域が目指すべき将来像を検討するにあたっては、現在、地域が持つ現状と課題、既存の将来ビジョンを踏まえつつ、地域が中心となってそれらの将来ビジョンの実現に向けて具体的に実施している様々な取り組みを再認識することからスタートし、それらの取り組みが目指す全体的な方向性を確認していくこととしました。そして、導き出された方向性に沿って、考え得る将来へのシナリオを描き、そのシナリオを通じて、現在地域が目指している、そして、今後地域が目指すべき2030年頃までの地域の将来像を描くこととしました。

##### 【具体的な検討フロー】

具体的な検討にあたっては、①**地域の現状と課題**と、今後予想される社会経済情勢の変化に対して地域が目指している②**既存の将来ビジョン**から、将来像の検討において着目すべき『論点』を整理した上で、検討を進める必要があります。

本章では、はじめに、PIステップ1の成果やその他関連する資料・文献をもとに、地域の将来像を検討する上で必要、かつ、空港・航空に関わる③**主な論点の抽出**を行います。

次に、それぞれの論点に関連して具体的に実施されている④**将来ビジョン実現に向けた具体的な取り組み**を考慮して、⑤**地域の将来へのシナリオ**を想定し、⑥**地域の将来像**を設定します。



2. 地域の将来像の検討

2) 論点の整理

主な論点の抽出

地域の将来像を検討する上で着目する論点は、「既存の将来ビジョン」とPIステップ1で整理した「地域の現状と課題」より、空港・航空に関連するものを抽出しました。

その結果、下図に示すように、主な論点として「グローバル化」「少子高齢化」「地方分権」「価値観の多様化」「IT化(高度情報化)」「社会資本形成」「環境重視」の7つの論点を設定しました。



地域の将来像と福岡空港の役割

地域の将来像と福岡空港の役割

2. 地域の将来像の検討

論点における着目すべき視点

前述で抽出した論点は、空港・航空に関連した地域の将来像を検討する上では、キーワードとして抽象的です。ここでは、「地域の現状と課題」と「既存の将来ビジョン」を踏まえて、論点毎に、より具体的に着目すべき主な視点について整理しました。

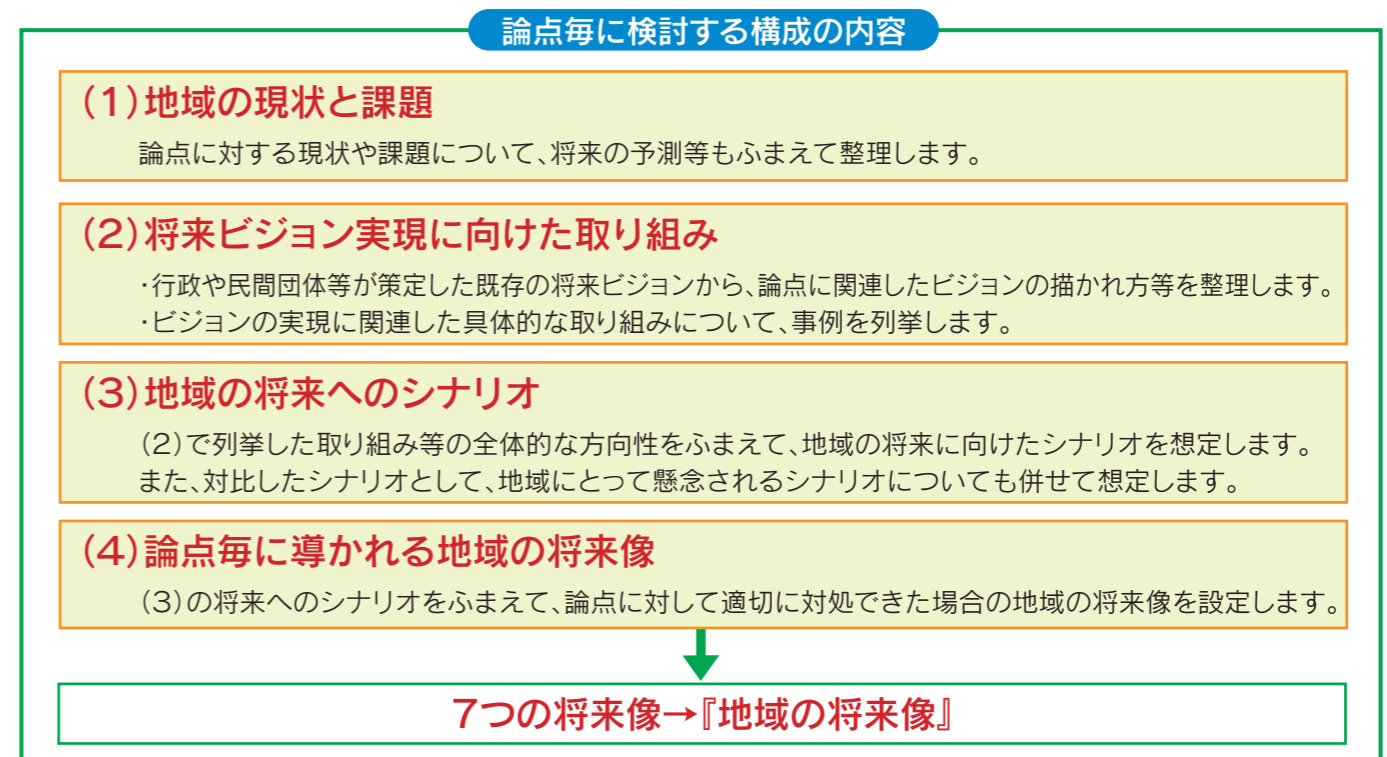
論点	着目すべき主な視点
①グローバル化	●アジア重視 ●社会・経済のボーダレス化 ●国際分業 ●観光戦略
②少子高齢化	●生産年齢 <sup>※</sup> 人口の減少 ●生産性の向上 ●交流人口の増加 ●都市の成長と地域の活性化
③地方分権	●地域の自立 ●地域の競争力の向上 ●福岡が有する九州の中核都市機能の活用・発展
④価値観の多様化	●ライフスタイルの変化 ●多様なニーズへの対応 ●余暇時間の拡大 ●多様な選択肢のある自由度の高い社会
⑤IT化(高度情報化)	●利便性・効率性の向上したシステムの構築 ●高度情報化社会への対応 ●情報関連産業
⑥社会資本形成	●厳しい財政制約 ●民間活力の導入 ●既存の社会資本の活用 ●選択と集中
⑦環境重視	●自然環境の保全 ●社会環境への配慮 ●地球環境問題の深刻化 ●環境産業の成長

※一般に15～64歳

論点毎の検討

地域の将来像は、7つの論点毎に検討を進めそれぞれの将来像を設定し、それを総合することによって求めます。論点毎の検討にあつた構成は、以下のとおりです。

最後に論点毎の7つの将来像を、「地域の将来像」として整理します。



2. 地域の将来像の検討

3) 論点毎の検討 ①グローバル化

①グローバル化

地域の現状と課題

現状1

高い経済成長が見込まれる東アジア

現状2

期待が高まる観光産業

現状3

東アジアでの九州の認知度は低い

課題1

競争力を高め、東アジアを重視した福岡・九州経済の国際展開

課題2

福岡・九州の国際的な認知度向上による観光振興

- ・九州は、古くからアジアとの対外交流で栄えてきた地域です。特に福岡は、今から1300年以上前に外国からの賓客をもてなす「鴻臚館(こうろくかん)」が設置されるなど、古くから「国際交流の拠点」として成長してきました。
- ・近年、情報化や国家間の障壁の低減(ボーダレス化)などにより、人・モノ・カネ・情報等の国境を越えた往来が、かつてとは比較できない規模にまで活発化し、「グローバル化」が急速に進展しています。
- ・中国をはじめとする東アジア経済は急速に成長し、今後もさらに成長すると予測され、世界経済の中で日本経済の大幅な地位の低下の恐れがあります。また、東アジア以外にも、ロシアやインドなど世界経済の中で影響が増大すると予測される諸国の動向についても注視する必要があります。
- ・グローバル化に伴い国際分業が深化する東アジアの中で、地理的に優位な福岡・九州は、自動車や半導体など製造業を中心に高付加価値のモノの生産などの域内競争力を強化し、東アジアを重視した国際展開が必要となります。
- ・次世代の九州を牽引する新たな産業として観光が注目されています。観光は、すそ野の広い複合産業であり、地域へ多面的な効果が期待されます。九州を訪れる外国人は、アジアを中心に増加していますが、九州に対するアジアの人々の認知度は、国内の他地域に比べると低い状況です。

グローバル化における現状と課題

- ・中国の経済規模は、2030年には現在の5倍と予測
- ・国際観光客数の増加が見込まれる

- ・国内では東アジアに近接する地理的優位性
- ・北部九州には、自動車や半導体など製造業を中心に産業が集積
- ・東アジアでの認知度は低い

日本

世界経済の中で日本の相対的地位の低下が懸念

ヒトやモノ等の国境を越えた往来

【福岡・九州の課題】

- ・競争力を高め、東アジアを重視した福岡・九州経済の国際展開
- ・福岡・九州の国際的な認知度向上による観光振興

今後、ロシアやインドなどの国々も経済成長により大きな存在になることが予測される

ここでは日本、中国、台湾、香港、韓国とASEAN10ヶ国を含めた国や地域を「東アジア」と呼ぶこととします。東アジア:日本、中国、台湾、香港、韓国、フィリピン、ベトナム、ラオス、カンボジア、タイ、ミャンマー、マレーシア、シンガポール、インドネシア、ブルネイ

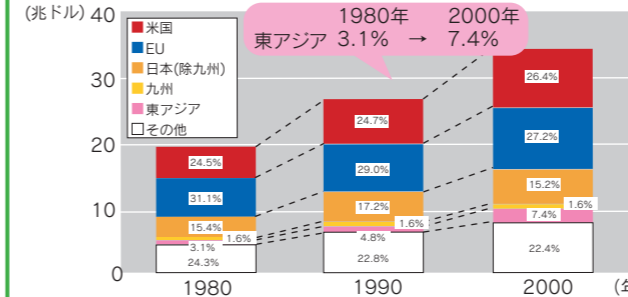
2. 地域の将来像の検討

①グローバル化

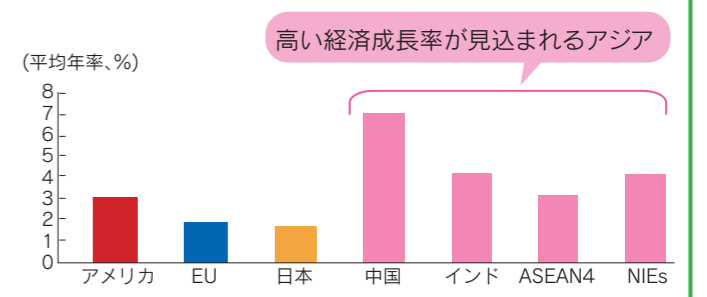
現状1 高い経済成長が見込まれる東アジア

日本を除いた東アジアの地域別実質GDP及びその世界に占める割合は、ともに増加傾向にあり、今後も高い成長が続くと予測されています。これに対し九州は、実質GDPは増加しているものの、世界に占める割合は、横ばいであり、日本を含む先進国の経済成長は相対的に低いと予測されています。

地域別実質GDPの推移



2030年までの平均成長率

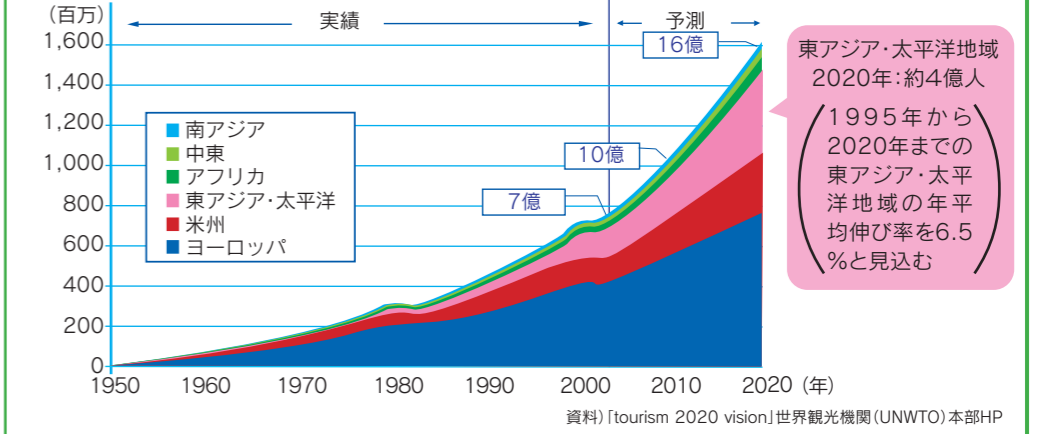


注)棒グラフ中の数値は世界のGDPに占める構成比。本グラフの東アジアにはベトナム、ラオス、カンボジア、ミャンマー、ブルネイ、日本を含まない。資料)世界銀行「WDI」から作成 ※WDI:「World Development Indicators」というデータ集の略称

現状2 期待が高まる観光産業

国際観光客数は、これまで概ね右肩上がりに伸びています。今後も順調に伸びると予測されており、中でも東アジア・太平洋地域の成長は著しく、米州を上回ると予測されています。

国際観光旅客の実績と予測

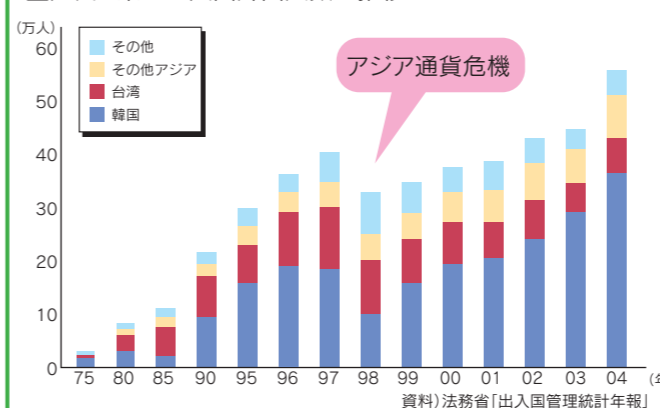


東アジア・太平洋地域  
2020年:約4億人  
(1995年から2020年までの東アジア・太平洋地域の年平均伸び率を6.5%と見込む)

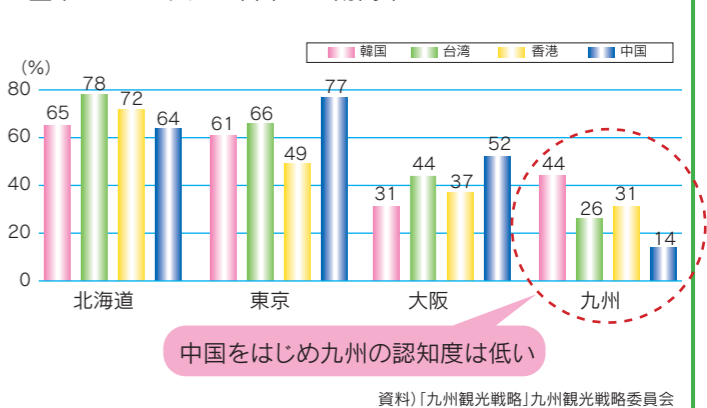
現状3 東アジアでの九州の認知度は低い

九州への入国外国人は、1998年のアジア通貨危機以降、増加傾向が続いています。しかし、九州は、東アジアの人々の日本での訪問希望地としての認知度は低い状況です。

九州7県への入国外国人数の推移



東アジアの人々の日本での訪問希望地



中国をはじめ九州の認知度は低い



## 2. 地域の将来像の検討

①グローバル化

### 将来ビジョン実現に向けた取り組み

#### ■既存の将来ビジョンの概要

国や地方自治体の総合計画等や経済界の将来戦略をみると、地域の将来としては、『グローバル化の進展に対して、成長が見込まれるアジア地域との連携・交流を進めることが重要』と位置付けています。特に九州については、『東アジアと地理的に近く、その優位性を活かしたビジョン』が描かれています。

**【既存資料の主な将来像】**

- 協力と競争によりアジアの中で共生する都市・福岡：「福岡市新・基本計画」福岡市、2003年
- アジアにおける一大交流拠点を目指す：「ふくおか新世紀計画」福岡県、1998年
- 開かれた文化創造国家：「日本21世紀ビジョン」内閣府、2005年
- 東アジアとの国際交流を先導する地域へ：「九州・新長期ビジョン」九州地方整備局、2002年
- アジアとの交流が日本の中で最も盛んな圏域となることを目指す：「アジア一番圏構想」九州経済産業局、2005年
- 東アジアでヒト、モノ、カネ、情報が自由かつ活発に移動できる環境：「東アジア共同体構想」民間・有識者による団体、2005年

#### ■具体的な取り組み

将来のビジョンを実現するために、行政や民間でグローバル化に取り残されないよう、アジアを中心とした具体的な取り組みが行われています。

**具体的な取り組みの例**

- 国際連携の強化**
  - ☆貿易協定の推進
    - ・EPA・FTAの交渉、締結……………取り組みの事例1
  - ☆産学官による交流の促進……………取り組みの事例2
  - ☆国境を越えた社会問題への対応
- アジアビジネス展開**
  - ☆21世紀中華街構想の推進（福岡市）
    - ・中国企業を中心とした企業誘致の計画
  - ☆アジアビジネス人材の育成・活用
    - ・九州大学ビジネススクール、九州アジア経営塾、留学生インターンシップ など
  - ☆アジアビジネスに係わる規制緩和
    - ・福岡アジアビジネス特区 など
  - ☆福岡における農産物・食品の東アジアへの輸出
    - ・高級果物（いちご・ぶどう等）、生鮮野菜（小松菜・春菊等） など
- 産業基盤の強化**
  - ☆生産拠点としてのアジアのマザー工場化……………取り組みの事例3
- 訪日の促進**
  - ☆九州観光戦略の推進……………取り組みの事例4
  - ☆観光振興への都市間連携
    - ・福岡市が加盟する「アジア太平洋都市観光振興機構（TPO）」 など
  - ☆訪日外国人旅行者へのサポート
    - ・訪日旅行ビザ制度の改善（中国訪日団体観光ビザのエリア拡大 など）
    - ・外国人旅行者の優遇措置（福岡市：福岡ウェルカムカード など）
    - ・ビジット・ジャパン・キャンペーン

## 2. 地域の将来像の検討

①グローバル化

### 取り組みの事例1 国際連携の強化～EPA・FTAの交渉、締結～（国）

世界各国は、特定の国や地域の間で自由貿易を進めるために、物品の関税やサービス貿易の障壁等を削減、撤廃することを目的として、FTA（自由貿易協定）やEPA（経済連携協定）などの経済連携への動きを強めています。現在、日本でも韓国やASEAN諸国との間で交渉が行われています。

**【日本と東アジアとの協定】**

- ・2002.11 シンガポールと経済連携協定が発効
- ・2005.12 マレーシアと経済連携協定に署名（2004.11に、フィリピンとの間で大筋に合意）

### 取り組みの事例2 国際連携の強化～産学官による交流の促進～（九州）

九州とアジアの間では、産学官で様々な会議等が設置され地域間の交流が進んでいます。また、2003年3月、福岡市に「福岡国際会議場」が設置され、経済・学術・文化など様々な分野での会議等が開催されています。

**【アジアとの経済交流】**  
貿易や投資、産業技術の協力促進と地域間の交流拡大など

- ・環黄海経済・技術交流会議
- ・九州・韓国経済交流会議
- ・九州・中国産業技術協議会
- ・九州・ASEAN産業交流事業 など

**【アジアとの行政交流】**  
地域経済の発展や国際交流の促進など

- ・アジア太平洋都市サミット
  - 13カ国26都市（海外：12カ国17都市、国内：福岡市他九州・沖縄の8都市）
- ・日韓海峡沿岸県市道知事交流会議
  - 日本：福岡県、佐賀県、長崎県、山口県
  - 韓国：釜山広域市、全羅南道、慶尚南道、済州道
- ・東アジア（環黄海）都市会議
  - 日本：福岡市、北九州市、下関市
  - 韓国：仁川広域市、釜山広域市、蔚山広域市
  - 中国：大連市、青島市、天津市、煙台市 など

**【アジアとの学術交流】**  
アジアの有力大学との連携、大学間の国際交流協定の締結など

- ・アジア学長会議、大学サミット・イン・九州 など

### 取り組みの事例3 産業基盤の強化～生産拠点としてのアジアのマザー工場化～（九州）

北部九州を中心に立地する製造業の多くが、近年、大型設備投資を行い、最新鋭の生産拠点としてアジアのマザー工場化が進んでいます。また、技術力や開発力を強化していくために、関連産業や研究機関等と連携を図り、地域全体としてのものづくり拠点の強化を図っています。

**■10年後の九州(工場)の位置付け**

**■近年の大型設備投資** (資料)九州経済産業局調べ

半導体	自動車	情報家電	鉄鋼	投資額	時期
東芝(2000億円)(福岡県ほか)	ダイハツ車体(400億円)(大分県)	FHP(1040億円)(宮崎県)	新日鐵大分(270億円)(大分県)	2000億円	03年度～07年度
ソニーセミコンダクタ九州(600億円)(福岡県ほか)	日産自動車(100億円)(福岡県)	大分キャノン(280億円)(大分県)		600億円	05年度～06年度
	トヨタ九州(640億円)(福岡県)			400億円	04年度12月操業
	本田技研熊本製作所(13億円)(熊本県)			13億円	04年度
				1040億円	05年度末量産稼働
				280億円	04年度
				270億円	04年5月改修

**【マザー工場】**  
①「高付加価値製品・高度部材の生産拠点として最先端の製造技術やノウハウを用いて生産を行う工場であって、生産を通じた工程の改善・改良を行い成熟・確立していく役割が期待されるもの」、あるいは②「①のように確立した製造技術を内外の生産拠点へ移転するとともに、こうした生産拠点への技術指導、技術サポート、ものづくり人材育成等を支援していく役割が期待されている工場」を指す。

### 取り組みの事例4 訪日の促進～九州観光戦略の推進～（九州）

九州では、官民一体となって、九州観光のさらなる発展を実現していくために「九州観光戦略」が策定されています。『魅力ある観光地の創造』や九州域内の連携のための『モビリティの向上』『おもてなし度（ホスピタリティ）の向上』『情報提供の強化』など九州が一体となって観光振興に取り組んでいます。その中で福岡空港と博多港の2つの国際交流基盤を有する福岡は大きな役割を担っています。

**■九州7県の入国外国人の推移と九州観光戦略での目標** (資料)「九州観光戦略」九州観光戦略委員会

**【VJC九州事業の成果の一例】**  
7月中旬に、北京市や青島市などから修学旅行生約300人が九州を来訪(H17.7.25時点)  
VJC:ビジット・ジャパン・キャンペーン

## 2. 地域の将来像の検討

①グローバル化

### 地域の将来へのシナリオ

グローバル化に対処した様々な取り組みが進化した場合の「地域の将来へのシナリオ」を以下に示します。また、それと対比して、地域にとって懸念されるシナリオも併せて示します。

#### 【地域の将来に向けたシナリオ】

- 福岡・九州は、東アジアへの地理的優位性があり、競争力のある付加価値の高いものづくり等の産業集積や、魅力ある観光資源などを活かす。
- 福岡・九州は、グローバル化の進展に向けて、これら九州のポテンシャルを活かすための様々な取り組みにより、地域の競争力や福岡・九州の認知度を高め、東アジアを中心とした世界の経済成長をうまく取り込んでいく。
- 福岡・九州は、東アジアをより身近に感じながら活気に満ちあふれ、東アジアで注目されかつ重要な地域の一つとなっていく。
- 地域経済の活性化は、企業の収益や地域の雇用の確保・所得の安定・向上をもたらし、人々は、安心して豊かな生活を送ることができる。

#### 【福岡では】

- 高次都市機能を有する都市として、国際的な競争力と魅力の向上
- 東アジアを中心に増大する国際交流、国際物流を受け入れる玄関口
- 魅力あふれる拠点都市として、九州経済をけん引し、九州の発展を促進

#### 【九州では】

- 九州がもつ自然や産業を活かした地域の国際的な競争力と魅力の向上
- 東アジアをターゲットとした製造業や観光等の産業振興
- 九州全体が持続的に発展することで、人々が安定して暮らせる地域を創造

#### 地域にとって懸念されるシナリオ(地域の将来ビジョンが実現しない状況)

- 福岡・九州は、東アジアへの地理的優位性を活かせず、日本の三大都市圏や東アジアの諸地域との競争力を失い、東アジアを中心としたアジアの成長から取り残される。
- 福岡・九州の経済は、成長機会を逃して低迷し、アジアの認知度が低いまま、アジアから相手にされない魅力を失った地域となる。
- 地域経済が低迷・衰退することは、人口の減少に拍車をかけ、企業の収益、地域の雇用・所得水準の悪化をもたらし、人々の生活は不安定となり、社会不安が増大する恐れがある。

地域の将来像と福岡空港の役割

## 2. 地域の将来像の検討

①グローバル化

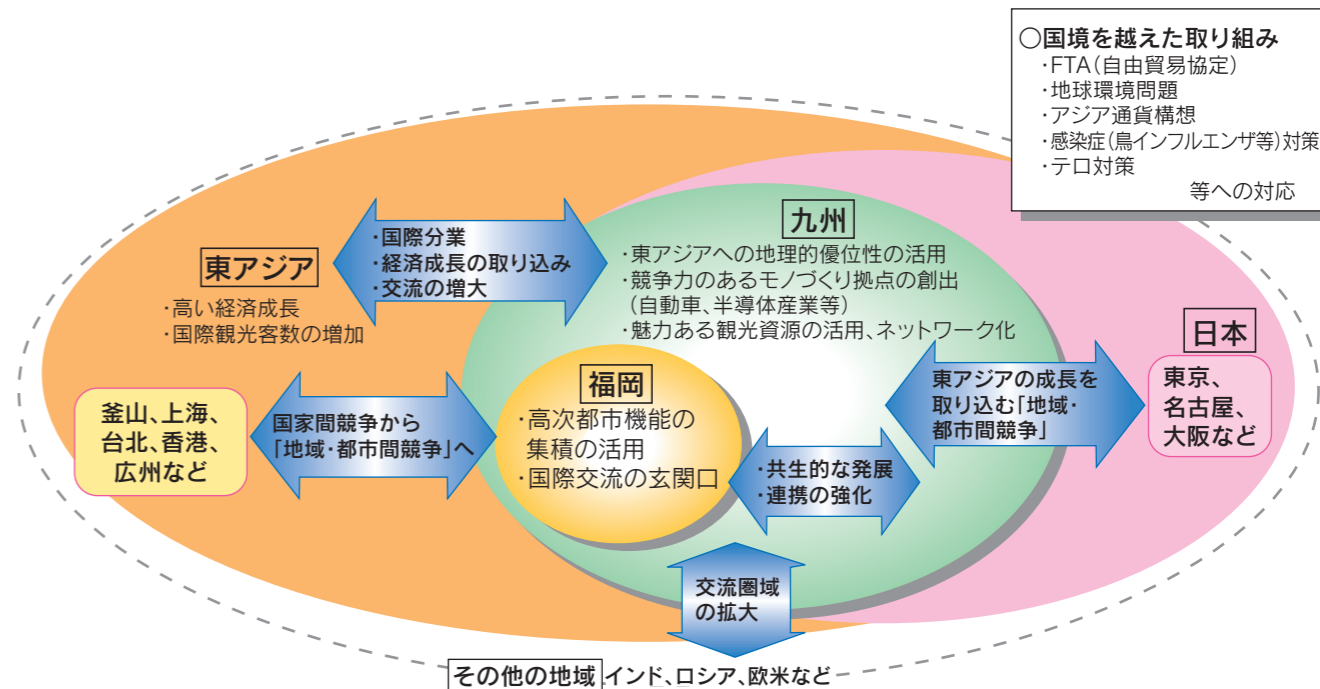
### 論点に対しての地域の将来像

将来へのシナリオに基づき、グローバル化に適切に対処できた場合の地域の将来像を以下に示します。

福岡・九州が、東アジアを中心としたグローバル化の進展に適切に対処できないと、東アジアへの地理的優位性を活かせずに、福岡・九州の競争力は、徐々に低下し、地域全体が衰退していく懸念があります。そのため、九州の持続的な発展のためには、福岡が中心となって、アジアとのこれまでの長い交流の歴史と文化を活かし、将来においても、**東アジアを中心として、多様な分野において国際交流・国際物流がより一層進み、国際社会と共生的に発展する地域**の創造を目指すべきです。

#### 【地域の将来像】 ①グローバル化

### 『成長する東アジアを中心とした国際社会と共生する地域』



#### 将来のイメージ

- FTA等の進展により、国境を越えた自由な経済圏の確立  
→『東アジア自由経済圏』
- 観光戦略等により、東アジアを中心とした海外観光旅客の増大  
→『観光立国、福岡・九州』

▼ヨーロッパ(EU)では国境を越えた自由な経済活動が進んでおり、一部地域では単一通貨(EURO)の導入に至っている



※写真は、EU統合の象徴の「EURO」資料)外務省HP

地域の将来像と福岡空港の役割



2. 地域の将来像の検討

②少子高齢化

②少子高齢化

地域の現状と課題

現状1

少子高齢化による生産年齢人口の減少

現状2

人口増加が続く福岡、人口減少が進む九州

現状3

増加傾向が見られる交流人口

課題1

労働力の確保、生産性の向上などによる生産力の維持向上

課題2

九州発展のために国内外の玄関口としての福岡の活用

課題3

交流人口を活かした地域の活性化

- ・日本の人口は、概ね2005年をピークに減少に転じ、その後、生産年齢人口の減少と高齢化が進行すると予測されています。2030年までの人口予測では、福岡市を中心とした福岡都市圏の人口は増加しますが、少子高齢化は進行し、また九州では、少子高齢化及び人口減少が進むと予測されています。
- ・少子高齢化が進めば、生産年齢人口の減少による生産力の低下や家計貯蓄の減少、消費市場の縮小などによる経済への悪影響が懸念されます。しかし、経済や生活は、人口だけで決まるものではなく、そうした懸念を払拭させる対応が必要となります。
- ・国内の生産力向上のためには、一人当たりの生産性向上とともに、健康な高齢者や女性の社会参画の促進、東アジアを始めとした国内外の優れた人材の確保が必要と考えられます。また、少子高齢化への抜本的な対策として、子育てや医療、介護の充実など安全・安心で快適に生活できる生活環境も重要となります。
- ・また、活力ある地域社会を形成していくためには、観光・学術・文化等による国境を越えた交流人口の拡大による活性化を進めることが重要です。そのためには、福岡が国内外の玄関口となり、九州が一体となって地域全体の交流人口の拡大を促進することが必要です。
- ・日本が直面している少子高齢化は、今後、東アジアにおいても将来現実的な課題となる可能性があり、福岡・九州での先進的な取り組みが課題解決のモデルとなり、国際貢献を果たすことが考えられます。

少子高齢化に関連した現状と課題

・2000年から2030年までの人口予測  
**中国は、増加**(約12.7億人→約14.5億人)  
**ASEANは、2030年以降も増加**

・2000年から2030年までの人口予測  
**福岡市：『約20万人増加』**

東アジア

【福岡・九州の課題】

- ・労働力の確保、生産性の向上などによる生産力の維持向上
- ・九州発展のために国内外の玄関口としての福岡の活用
- ・交流人口を活かした地域の活性化

・2000年から2030年までの人口予測  
**九州：『約100万人減少』、日本：『約1000万人減少』**  
 ・少子高齢化の進行、生産年齢人口の減少による生産力の低下が懸念→近代になってこれまで経験したことのない事態  
 ・必要となる抜本的な少子高齢化対策

大都市への人口の集中と地方の過疎化の進行

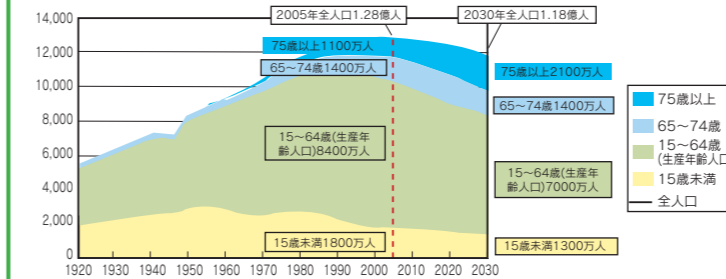
2. 地域の将来像の検討

②少子高齢化

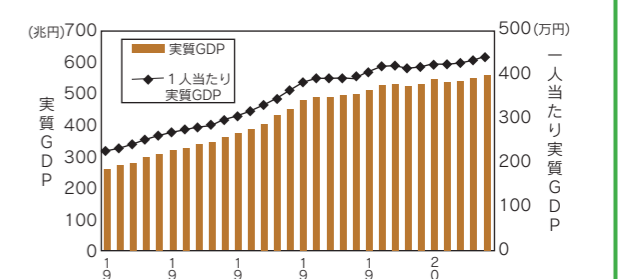
現状1 少子高齢化による生産年齢人口の減少

日本の総人口は、これまでほぼ増加傾向にあり、一人当たりの実質GDPも同様に増加傾向にありました。しかし、日本の総人口は、今後減少に転じ、2030年の総人口は1億1800万人、生産年齢人口は2005年と比べると8400万人から7000万人へ低下することが予測されています。一方、65～74歳までの人口は、2005年以降1400万～1700万人で推移しており、この層の健康な高齢者の社会参画が課題となります。

■日本の将来人口・年齢人口予測(中位推計)



■日本の実質GDPの推移 資料)「国民経済計算年報」内閣府、「国勢調査」総務省



資料)「国勢調査」総務省、「日本の将来推計人口」国立社会保障・人口問題研究所(H14.1)

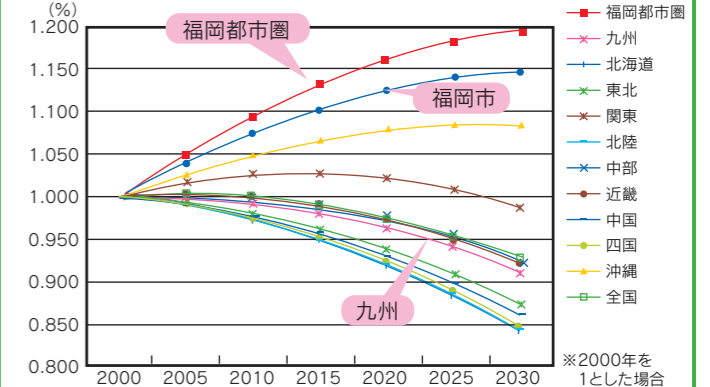
現状2 人口増加が続く福岡、人口減少が進む九州

2030年までは、福岡市及び福岡都市圏(※)では、人口増加が続くが、九州では、既に人口減少が始まっており、九州の全人口は、減少傾向にあると予測されています。また福岡市では、65歳以上の割合が2000年13%から2030年23%に増加し、都市部の福岡市でも高齢化が進行すると予測されています。

【人口】	(2000年)	(2030年)
・福岡市	134万人	153万人(約14%増)
・福岡都市圏	223万人	267万人(約20%増)
・九州	1,344万人	1,223万人(約9%減)

※人口及び人口の伸びは、日本の将来推計人口(中位推計)がベース。また、福岡都市圏は、「福岡市、筑紫野市、春日市、大野城市、宗像市、福津市、太宰府市、前原市、古賀市、筑紫郡、糟屋郡、糸島郡」、九州は沖縄を除く7県とした。

■国内の地域別推計人口の伸び



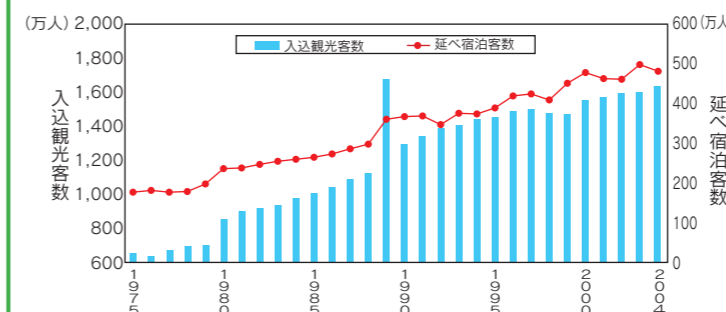
資料)「2000年 国勢調査」総務省、「日本の将来推計人口」国立社会保障・人口問題研究所(H14.1)

現状3 増加傾向が見られる交流人口

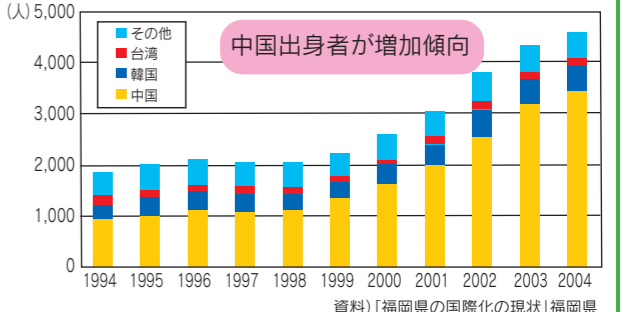
福岡市では、1989年の「アジア太平洋博覧会」や1995年の「ユニバーシアード福岡大会」など、近年様々なコンベンション等が開催されており、入込観光客及び延べ宿泊客数は増加傾向にあります。また、福岡県への留学生は、近年中国出身の留学生を中心に増加傾向にあり、国境を越えた交流が促進されています。

今後も福岡が国内外の玄関口となって、九州全体の交流人口の拡大を促進する必要があります。

■福岡市の入込観光客の推移 資料)福岡市観光統計



■福岡県内の留学生の推移



資料)「福岡県の国際化の現状」福岡県

## 2. 地域の将来像の検討

②少子高齢化

### 将来ビジョン実現に向けた取り組みの状況

#### ■既存の将来ビジョンの概要

国や地方自治体の総合計画等をみると、少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少に対して、『生産性の向上等による経済成長の持続』が予測されています。  
また、福岡市や九州の将来ビジョンでは、『地方部の活力低下の影響を懸念し、九州全体が連携し、国内外との交流を促進することで活性化していく』ことが示されています。

#### 【既存資料の主な将来像】

- 安全で快適な市民生活充実の都市・福岡、多彩な人が集い活躍する活気創造の都市・福岡：「福岡市新・基本計画」福岡市、2003年
- 創造的活力にあふれた人たちの活躍：「ふくおか新世紀計画」福岡県、1998年
- 開かれた文化創造国家、「時持ち」が楽しむ「健康寿命80歳」：「日本21世紀ビジョン」内閣府、2005年
- 自立・一体的な活力ある地域へ、安全で安心できる・ゆとりある暮らしへ：「九州・新長期ビジョン」九州地方整備局、2002年

#### ■具体的な取り組みの状況

将来ビジョンに関連して、『人材の確保・育成、産業支援で人材のすそ野を広げ、その質を高めていくことにより、新たな付加価値を創造していく』といった生産性の向上に関わる様々な取り組みが行われています。また、少子高齢化に対して、子育て・医療等の、労働・生活環境の向上に関わる取り組みも始まっています。  
一方、観光や学術・文化等を通じた交流を拡大させ、地域の活力を促す多様な取り組みも行われています。

#### 具体的な取り組みの例

##### 生産性の維持向上

- ☆人材の確保
  - ・若者、女性、高齢者の労働環境向上、就業支援
  - ・外国からの人材受け入れ……………取り組みの事例1
- ☆人材・プロフェッショナルの育成
  - ・高度人材の育成(福岡水素エネルギー人材育成センターなど)
  - ・将来世代人材の育成(高校生ものづくり技能育成事業など)
- ☆人材が活躍出来る機会の提供(新たな産業支援など)
  - ・ベンチャー・中小企業への支援
  - ・次世代産業の振興……………取り組みの事例2
- ☆産学官による交流会議等の設置(再掲)

##### 労働・生活環境の向上

- ☆男女共同参画の推進(男女が共に能力を発揮できる就業環境づくり)
- ☆子育て環境の充実(福岡市：第3子優遇事業など)
- ☆高度医療の充実(福岡市：西日本唯一の小児総合医療施設『こども病院・感染症センター』と『市民病院』の統合など)

##### 観光・学術・文化等国内外交流の拡大

- ☆ビジターズ・インダストリーの振興……………取り組みの事例3
- ☆文化・市民交流の促進
  - ・アジアマンス、福岡アジア文化賞、アジアフォーカス福岡映画祭、アジア太平洋子ども会議・イン福岡、姉妹都市交流など
- ☆九州観光戦略の推進(再掲)
- ☆産学官による交流会議等の設置(再掲)

## 2. 地域の将来像の検討

②少子高齢化

### 取り組みの事例1 生産性の維持向上～外国からの人材受け入れ～(国)

日本が進める東アジアとの経済協力において、シンガポールとの間では、商用目的の入国・滞在の容易化などの協定を結んでいます。(2002.11 経済連携協定発効)  
また、フィリピンとの間では、看護師や介護福祉士といった福祉技術者の入国・就労などについて大筋合意がなされており、国際的なヒトの移動が促進されます。(2004.11 経済連携協定大筋合意)

#### ■シンガポールとの経済連携協定

##### ○人の移動の促進

- ・人の移動：入国管理規制緩和、資格の相互承認  
(例)商用目的の入国・滞在を双方で容易化する



- ・人材養成：学術研究者・教員・学生・公務員等の交流を強化する
- ・観光：双方の観光客の拡大

資料)「日本・シンガポール新時代経済連携協定」外務省

### 取り組みの事例2 生産性の維持向上～次世代産業の振興～(福岡県、福岡市)

福岡県では、システムLSI、ロボット、映像・ゲーム等のデジタルコンテンツや水素エネルギーなど付加価値の高い次世代成長産業の育成と集積促進についての取り組みが産学官の連携のもと進んでいます。福岡市でも、大学やサービス産業の集積を持つ都市の特性を活かし、情報やデザイン、デジタルコンテンツなど福岡にふさわしい新産業の振興に取り組んでいます。

#### 【次世代成長産業の育成・集積促進】

- ・シリコンシーベルト福岡の推進
- ・北部九州自動車百万台生産拠点の構築
- ・福岡バイオバレープロジェクトの推進
- ・ロボット産業の育成
- ・ナノ福岡21プロジェクトの推進
- ・福岡水素エネルギー戦略の展開
- ・コンテンツ産業の育成
- ・IT総合戦略の展開

### 取り組みの事例3 観光・文化・学術等国内外交流の拡大～ビジターズ・インダストリーの振興～(福岡市)

福岡市では、おもてなしの心に満ちた『国際集客文化都市』を目指して、官民共働による福岡の魅力創造と東アジアとの交流機能の強化によって、ビジターズ・インダストリー(集客産業)の振興を図っており、このような動きが九州全体の交流人口の拡大に寄与することが期待されます。

#### 【福岡市のビジターズ・インダストリー推進事業での取り組み】

- ・官民が一体となった「ビジターズ・インダストリー推進協議会」の設立(2003.10)
- ・ウエルカムキャンペーン
- ・福岡・釜山・上海市民クルーズの支援
- ・VI(ビジターズ・インダストリー)都市塾 など

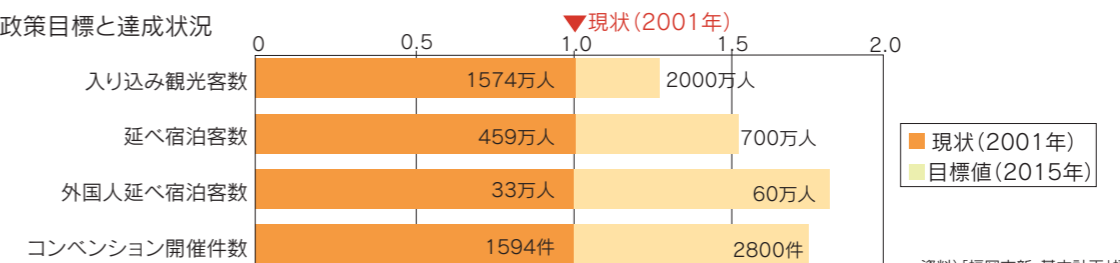
資料)平成17年度福岡市経済振興局事業概要

#### 【主なコンベンションの今後の予定(2005.3.20時点)】

年次	大会名	(参加人数)
2006年	第21回国際高血圧学会	8,000人
2006年	第20回世界政治学会世界大会	2,000人
2006年	第34回世界クロスカントリー選手権	1,000人
2010年	第13回アジアオーストラレーシアン麻酔科学会	3,000人

資料)福岡市HP

#### ■福岡市の政策目標と達成状況



資料)「福岡市新・基本計画」福岡市



2. 地域の将来像の検討

②少子高齢化

地域の将来へのシナリオ

少子高齢化に対処した様々な取り組みが進展した場合の「地域の将来へのシナリオ」を以下に示します。また、それと対比して、地域にとって懸念されるシナリオも併せて示します。

【地域の将来に向けたシナリオ】

- 福岡・九州の産業は、女性、高齢者、優れた外国人などによる労働人口の確保に加え、優秀な人材の育成や、充実した高速交通網やITの活用などにより、生産力を維持・向上させていく。
- 福岡は、九州経済のけん引役として、また国内外との交流拠点都市として拠点性を高めて、多様な人材が集まることで活気が沸き、その効果は九州全体に波及し、九州全体は発展していく。
- 九州は、活気あふれる都市と豊かな自然が近接していることや、文化や歴史といった地域固有の魅力、そして地域の温かいホスピタリティ(心のこもったおもてなし)が国内外に浸透し、九州を回遊する等来訪者が増加し、その波及効果で地域の産業・経済は活性化していく。
- 福岡・九州の人々は、活力ある地域経済により、企業の収益、地域の雇用や所得水準は安定し、また人々の生活をサポートする医療や子育てなど充実した労働・生活環境が構築され、安全・安心で快適な生活を送っている。

【福岡では】

- 優れた人材により、九州経済のけん引役として活力を向上
- 高次都市機能や文化や歴史といった地域固有の魅力によって、国内外との交流拠点都市として成長
- アジアの中で、最も訪れたい都市の一つへ
- 活性化する福岡の好影響は、九州全体へ波及

【九州では】

- 良質な労働力の確保と生産力の維持向上によって、先端産業や地場産業が成長
- 魅力ある地域固有の資源や充実した交通ネットワーク、地域の温かいホスピタリティを活用して地域への来訪者の増加
- 国内外から来訪により、地域は持続的な発展、人々の安定した暮らしへ

地域にとって懸念されるシナリオ(地域の将来ビジョンが実現しない場合)

- 九州の少子高齢化は一層進み、地域の産業は良質な労働力が確保できず、進歩する技術にも対処できないまま生産力は低下する。
- 九州は、知名度が上がらず他地域との競争力が低下し、ビジネスや観光だけでなく市民レベルでの交流などによる地域への来訪者は徐々に減少し、地域経済は低迷する。
- 福岡は、都市の魅力を失い、人口も他の大都市圏へ流出し、その悪影響は福岡だけにとどまらず、九州全体に広がる。
- 九州は、地域全体が過疎化することで、将来の地域の担い手を失い、地域は衰退していく。

地域の将来像と福岡空港の役割

2. 地域の将来像の検討

②少子高齢化

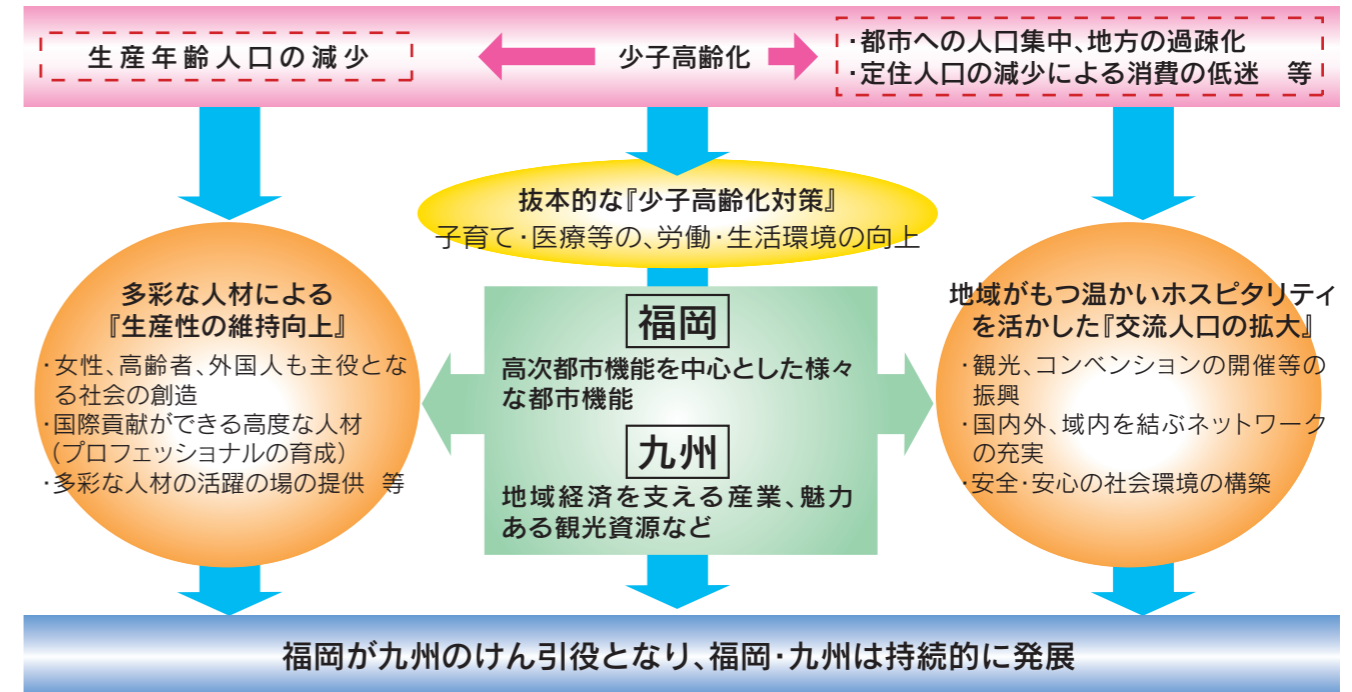
論点に対しての地域の将来像

将来へのシナリオに基づき、少子高齢化に適切に対処できた場合の地域の将来像を以下に示します。

福岡・九州が、少子高齢化に対してうまく対応できないと、生産性の低下に伴う地域産業の低迷や、魅力ある観光資源を活かせないまま地域の競争力の低下により、九州だけでなく福岡からも来訪者や居住者が三大都市圏等の他地域へ流出し、地域全体が衰退していく懸念があります。

地域が少子高齢化に対応して持続的に発展するためには、地域経済を支える産業や観光など様々な固有の資源や、福岡の高次都市機能を中心とした様々な都市機能、長年の多彩な交流によって醸成された温かいホスピタリティや安全・安心な社会環境などの地域の魅力を九州が一体となって高め、その魅力を吸引力として**国内外から多彩な人材を引きつける、多様な機会に充ちた地域**の創造を目指すべきです。

【地域の将来像】 ②少子高齢化  
『国内外から多彩な人材を引きつける、多様な機会に充ちた地域』



将来のイメージ

- 地域の「温かいホスピタリティ」を活かして、経済や観光・文化・学術等の国内外の様々な交流の拡大により、多彩なヒトで賑わう地域の確立

『訪れたい、働きたい、住みたい街・地域へ』

▼外国人旅行者の受け入れが多いフランスやイタリア



▲人口に対する年間入国者数の割合は、現在、フランス130%、イタリア70%に対して、日本4%、福岡県7%と低い。  
※写真はパリ(フランス)の街頭

地域の将来像と福岡空港の役割



2. 地域の将来像の検討

③地方分権

③地方分権

地域の現状と課題

現状1

国主導の行政システムによる地域性の喪失

現状2

一国に匹敵する九州のポテンシャルと社会資本の立ち後れ

課題1

今後は、地域の特性を活かした「個性ある地域の発展」が必要

課題2

既存の社会資本を活用しながら、地域の課題へ自立的に対応するための社会資本の充実が重要

・欧米へのキャッチアップを目指した時代にあつては、全国的な量的成長を図るため国が主導的な役割を担ってきました。それにより地域の特色の喪失及び地方の国依存体質につながった側面も否定できません。
・交通網や情報網の発達によって広域化する地域課題や、価値観の多様化により高度化・複雑化する住民のニーズに対しては、住民に密着した適切な主体が自立的に対応していく必要があります。
・また、九州の面積、人口、総生産は、オランダとほぼ同じ規模であり、九州は一国に匹敵する地域ポテンシャルを有していると言えますが、それを支える社会資本整備は遅れている状況です。
・グローバル化の進展や少子高齢化等が進む中、国内外の地域・都市との交流の拡大と、地域の統合による九州全体の活力を高めるための地域社会を考えていく必要があります。

地方分権に関連した現状と課題

【行政の現状】

- ・国主導の政策による地域性の喪失(国主導)
・交通網の発達により広域化する課題への対応
・住民の高度化・多様化するニーズ

【行政の課題】

- ・地域性を活かした個性ある魅力づくり(地域主導)
・課題に応じた様々な主体が対応
・住民に身近な主体が対応

中央集権から地方分権への転換

国主導の画一的な行政から地域主導の自立した行政への変換が必要

【九州の現状】

- ・一国に匹敵する九州のポテンシャル
・一国と比較すると遅れている社会資本

【地方分権に向けた九州の課題】

- ・地域性を活かした個性ある発展をし、地域課題へ自立的に対応するための社会資本の充実
・福岡が持つ国内外との交流、地域内連携を支える社会資本の活用、充実

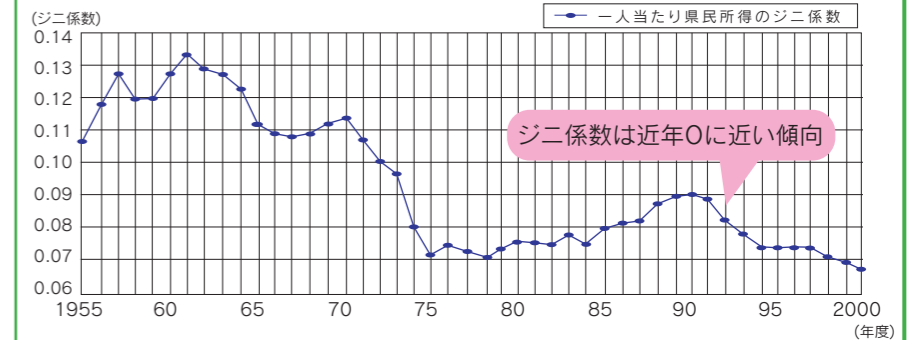
2. 地域の将来像の検討

③地方分権

現状1 国主導の行政システムによる地域性の喪失

これまでの国の全国総合開発計画は、「国土の均衡ある発展」を図るために、長期的かつ国民経済的視点に立って策定されました。その結果、社会資本整備や地域振興などによって、所得水準や生活水準は向上し、一人当たりの県民所得の地域間格差は、縮小傾向にありました。

■地域間所得格差の推移



注) 1. ジニ係数は、分布の偏りを表す指標であり、0から1までの値をとり、1に近いほど地域間の格差が大きいことを示している。
2. 1955年度から1970年度の沖縄県の人口は、1955年、60年、65年、70年の数値をもとに算出した5年間の平均増加率により推計した。
3. 県民所得は、1955年度から1991年度までが68SNA、1992年度以降が93SNAに基づく数値である。
※SNA: 国民経済計算の略称 (System of National Accounts)
資料) 内閣府「県民経済計算」、総務省「国勢調査報告」及び「人口推計年報」をもとに国土交通省国土計画局作成

現状2 一国に匹敵する九州のポテンシャルと社会資本の立ち後れ

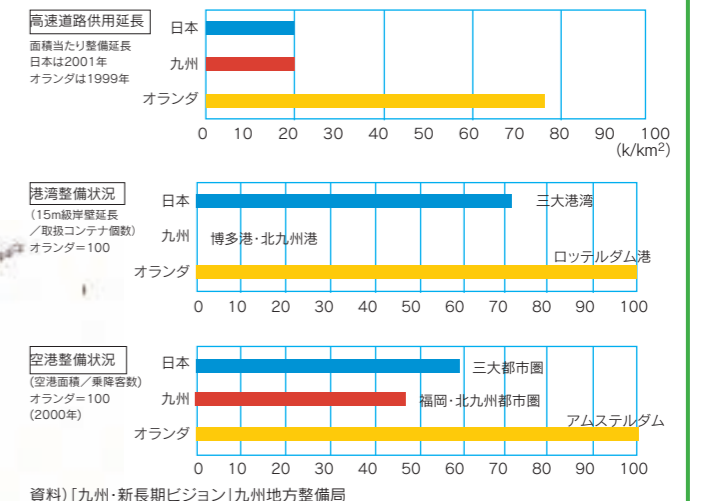
九州の面積・人口・総生産は、オランダとほぼ同じ規模であり、九州は一国に匹敵する地域ポテンシャルを有していると言えます。しかし、地域が自立するために必要な社会資本整備の現状は、三大都市圏やオランダに比べて遅れている状況です。今後、九州が自立した地域として、地域全体の活力を高めていくためには、新幹線や高速道路、空港、港湾など基幹交通基盤の充実を図ることが重要となります。

■九州とオランダとの比較

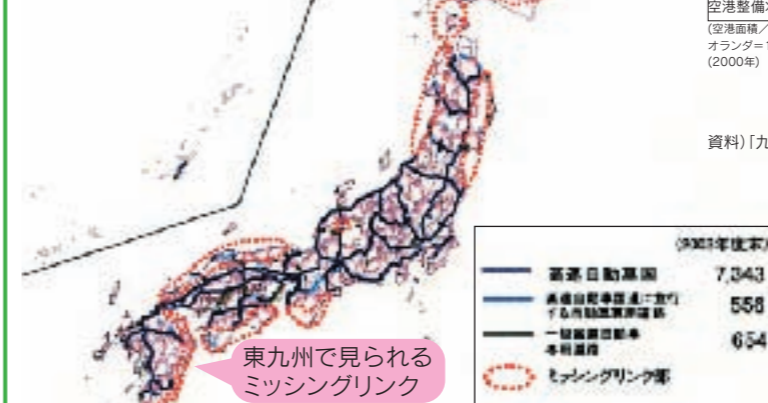
Table comparing九州 and Netherlands across four categories: Area (km²), Population (thousands), Total Production (billion yen), and Year.九州 values are 39,910 km², 13,446 thousand, 3,459 billion yen, and 2000. Netherlands values are 41,528 km², 16,105 thousand, 4,190 billion yen, and 2002.

※九州は、沖縄を除く。カッコ内は、九州の数値に対する割合
資料) 「世界の統計2006」「日本の統計2006」総務省統計局
「九州データ・データブック2006」西日本新聞社

■九州の社会資本整備状況



■高速道路の主なミッシングリンク



※ミッシングリンク (missing link): 幹線道路などの交通ネットワークの欠落区間。
資料) 「新しい国のかたち「二層の広域圏」を支える総合的な交通体系」国土交通省

## 2. 地域の将来像の検討

③地方分権

### 既存の将来ビジョン・取り組み

#### ■既存の将来ビジョンの概要

国や民間の総合計画等をみると、新たな時代への対応として地方分権の推進がうたわれており、『地域の自立性を重んじた将来像』が述べられています。  
また、九州がその独自性を発揮し自立的に発展していくためには、『九州全体がそれぞれの地域性を活かして一体となって取り組むことが重要』と示されています。

#### 【既存資料の主な将来像】

- 果敢に挑戦する自治と自律の都市・福岡：「福岡市新・基本計画」福岡市、2003年
- 美しく潤いのあるまちでの暮らし：「ふくおか新世紀計画」福岡県、1998年
- 豊かな公・小さな官、地域主権の実現：「日本21世紀ビジョン」内閣府、2005年
- 自立・一体的な活力ある地域へ、豊かな個性が輝く地域へ：「九州・新長期ビジョン」九州地方整備局、2002年
- 自律的経済圏の形成：「21世紀の九州地域戦略」(社)九州・山口経済連合会、2002年

#### ■具体的な取り組みの状況

将来ビジョンに関連して、国から地方への権限の委譲と、地方行政の執行体制強化など分権型社会への着実な移行に向けた様々な取り組みが、国をはじめとした行政等で行われています。  
また、福岡・九州において、自立した地域社会の形成に向けた取り組みが、行政や民間等で行われています。

#### 具体的な取り組みの例

#### 分権型社会への移行

- ☆地方分権の推進を図るための法整備など
  - ・地方分権推進法(H7)、地方分権一括法(H11)
  - ・地方行財政制度の審議
- ☆三位一体の改革
- ☆市町村合併の推進
  - ・福岡県：H11.3.31(97市町村)→H18.3.31(69市町村)
- ☆新たな広域行政体制の検討
  - ・道州制の検討……………取り組みの事例1
- ☆国土形成計画
  - ・地方ブロックごとの広域地方計画の策定

#### 自立した地域社会の形成

- ☆地域の行政改革の推進
- ☆構造改革特区の導入……………取り組みの事例2
- ☆地域の活性化
  - ・福岡での企業振興……………取り組みの事例3
  - ・地域で進む国際展開……………取り組みの事例4
- ☆基幹交通基盤の活用・充実
  - ・九州新幹線、高速道路網の整備 など

## 2. 地域の将来像の検討

③地方分権

### 取り組みの事例1 分権型社会への移行～道州制の検討～(国、九州)

2004年3月に発足した国の第28次地方制度調査会<sup>※</sup>では、審議項目の一つとして「道州制のあり方」が挙がっており、道州制の導入に向けた具体的な制度等の検討が行われています。また、九州でも、九州地方知事会や(社)九州・山口経済連合会において、地方からの道州制の推進に向けた検討が行われています。

※地方制度調査会：地方制度に関する重要事項を調査審議する首相の諮問機関。

#### 【道州制検討の方向性：第28次地方制度調査会】

- ・地方分権の推進及び地方自治の充実強化
- ・自立的で活力ある圏域の実現
- ・国と地方を通じた効率的な行政システムの構築

上記の方向性に基づいて、道州制の基本的な制度設計では、「道州の位置付け」や「道州の区域」などが検討されている。

資料)内閣府HP(「道州制のあり方に関する答申」)より抜粋)

### 取り組みの事例2 自立した地域社会の形成～構造改革特区の導入～(国、福岡県、福岡市など)

地域経済の活性化を目的として、地域の特性に応じた規制の特例を導入する「構造改革特区」が全国各地に設けられており、福岡県では、アジアとの交流拡大や新産業に関わる特区などが設置されています。

#### 【福岡市の構造改革特区】

- ・福岡アジアビジネス特区
- ・ロボット開発・実証実験特区
- ・福岡水素利用技術研究開発特区
- ・環境にやさしい都市・福岡カーシェアリング特区

資料)福岡県HP

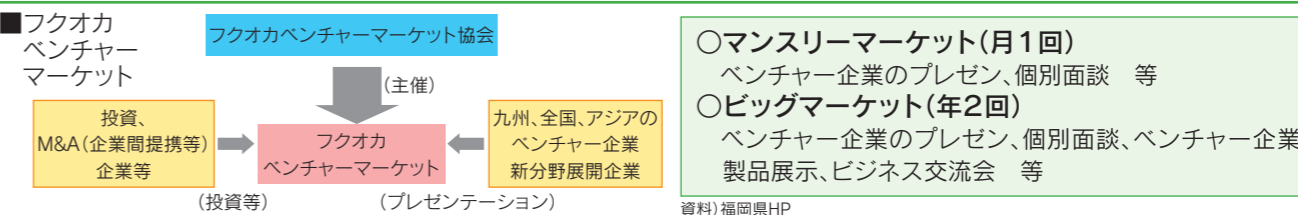
#### 【福岡アジアビジネス特区での規制の特例措置】

- ・外国人研究者の受入れ促進
- ・外国人の入国、在留申請の優先処理
- ・外国人情報処理技術者の在留期間延長
- ・夜間大学院における留学生の受入れ
- ・税関の執務時間外における通関体制の整備
- ・特定埠頭の運営効率化 など

### 取り組みの事例3 自立した地域社会の形成～福岡での企業振興～(福岡県)

ベンチャー企業の支援として、フクオカベンチャーマーケット協会では、資金調達や販売拡大などを目的として、九州やアジアなどのベンチャー企業と投資家や商社等ビジネスパートナーとの出会い(マッチング)の場を提供しています。また、企業のポテンシャル向上のために、九州内から福岡に新たに拠点を設置した企業もみられます。

#### ■フクオカベンチャーマーケット



資料)福岡県HP

#### 【新たに福岡に拠点を設置した企業の例】

『ソニーセミコンダクタ九州(株)』:ソニー国分(株)、ソニー大分(株)、ソニー長崎(株)の三社を統合し、九州におけるソニーグループの主力半導体生産を担う中核会社として位置付けられている。本社は福岡市。

### 取り組みの事例4 自立した地域社会の形成～地域で進む国際展開～(福岡県、福岡市)

福岡市には、外国公館等をはじめとした国際機関が設置されています。また、外資系企業の福岡進出も見られ、さらに促進するため「福岡県海外企業誘致センター」が設置されています。なお、福岡の企業の海外進出もみられ、特にアジアを中心とした展開が今後も期待されます。

#### 【福岡市の外国公館等】

- ・『国連ハビタット福岡事務所』や大韓民国、中華人民共和国などの『総領事館』等

#### 【外資系企業の進出事例】

- ・『EDAGエンジニアリングデザイン』:ドイツの大手自動車デザイン会社 交通基盤の充実、北部九州の自動車産業の集積、福岡県フランクフルト事務所からの的確な情報提供等により、福岡市に支店を開設
- ・『サン・マイクロシステムズ』:アメリカの世界屈指のIT企業 「脱東京ビジネスモデル」にチャレンジする場として福岡に進出

#### 【福岡企業の海外進出事例】

- ・ラーメン店『博多一風堂』を経営する『力の源カンパニー』や、洋麺屋『ピエトロ』の海外展開
- ・『九州電力』の海外における発電事業や海外コンサルティング事業の展開



2. 地域の将来像の検討

③地方分権

地域の将来へのシナリオ

地方分権に対処した様々な取り組みが進展した場合の「地域の将来へのシナリオ」を以下に示します。また、それと対比して、地域にとって懸念されるシナリオも併せて示します。

【地域の将来に向けたシナリオ】

- 福岡・九州は、グローバル化への対処など刻々と移り変わる時代のニーズに対して、国との役割分担を明確にし、地域の役割に応じて見直された財源をもとに、効率の良い行政システムを先進的に整備していく。
- 福岡は、これまでの良き伝統である中世博多の自治都市の歴史と進取の気概を受け継いで、中枢都市機能を維持発展させる独自のまちづくりを進めることによって都市の魅力を高め、九州の自立的発展を支える交流拠点都市として成長していく。
- 九州は、東アジアとのつながりの歴史や魅力あふれる都市と自然豊かな地域の近接性、付加価値の高い産業集積、高速交通基盤など地域のポテンシャルを活かした独自の展開を、地域が一体となつて的確かつ迅速に進めることにより地域の競争力を高め、自立的に発展していく。

【福岡では】

- 時代のニーズに応じた効率の良い行政システムの導入
- 地域固有の歴史や文化に裏打ちされた独自のまちづくりによる魅力の向上
- 先進的な規制緩和、国際貢献、国際的な企業活動等による自立的な発展

【九州では】

- 道州制など地方分権への先進的な取り組み
- 効率の良い行政システムによる地域ニーズへの迅速かつ的確な対処
- 地域は競争力を高め自立的に発展

地域にとって懸念されるシナリオ(地域の将来ビジョンが実現しない状況)

- 地方分権の推進を怠ることで、福岡・九州には時代のニーズに合わない非効率な行政システムが残る。
- 福岡・九州は、刻々と移り変わる時代のニーズに対して、自立的な対処ができず、地域の個性は埋没し、競争力が低下する。
- 福岡は、中枢都市機能を維持できず拠点性が低下し、九州の一体化はできず活力の低下にもつながっていく。

地域の将来像と福岡空港の役割

2. 地域の将来像の検討

③地方分権

論点に対しての地域の将来像

将来へのシナリオに基づき、地方分権に適切に対処できた場合の地域の将来像を以下に示します。

福岡・九州は、地方分権が推進されず現状のままの行政システムであれば、地域の実情やニーズに柔軟に対処できず、個性ある地域の資源・活力は埋没し、競争力低下により地域の魅力は失い、自立的に対処できないまま、地域全体が衰退していく懸念があります。

そのため、福岡・九州は、高度化する多様なニーズに対処でき、国内外との地域間競争を勝ち抜く強い地域を作るために、地域が責任を持って自ら判断・対処していく「自立した分権社会」を構築し、**地域の自然・歴史・文化といった個性を活かした地域**の創造を目指すべきです。

【地域の将来像】 ③地方分権

『地域性を活かして競争力のある自立した地域』

- ・一国に匹敵する地域ポテンシャル
- ・高度化する多様なニーズ
- ・国内外の地域間で競争

自立した地域社会の構築

- ・地域ニーズへ迅速、的確、主体的に対応できる効率の良い行政システムの構築
- ・先進的な規制緩和、国際貢献、国際的な企業活動などによる地域の発展

『国際交流する地域』から『国際貢献できる地域』への展開

福岡：日本の中枢都市から、『東アジアを代表する交流拠点都市』へ  
 九州：日本の西端にある地域から、『東アジアの中核を担う地域』へ

将来のイメージ

- 競争力のある自立した地域へ

- 『国際機関の立地』
- 『外資系企業の進出』
- 『福岡の企業の国際展開』

▼東アジアの中で国際貢献できる都市・地域となっていくことが期待される



※写真は、EU本部があるベルギー・ブリュッセル(資料)国土交通省パンフレット

地域の将来像と福岡空港の役割

## 2. 地域の将来像の検討

④価値観の多様化

### ④価値観の多様化

#### 地域の現状と課題

- 現状1**  
「モノの豊かさ」から「心の豊かさ」への価値観の転換
- 現状2**  
余暇活動の観光旅行への潜在的需要
- 現状3**  
利便性の高い都市と自然豊かな地域が近接する九州

- 課題1**  
九州の特性を活かしたゆとりある生活ができる地域の実現
- 課題2**  
福岡がもつ文化やスポーツなどの都市的サービスの魅力向上
- 課題3**  
双方向の交流拡大に向けたモビリティの向上

・人々の価値観は、「モノの豊かさ」から「心の豊かさ」を重視する傾向に変化してきており、交通基盤整備などによるモビリティ（移動性）の向上や、ITを活用した容易な情報収集などにより、人々のライフスタイルは従来に比べて多様なものに変化しています。なかでも、余暇活動に対する旅行の潜在需要は既に高い状況です。また近年、旅行形態については、団体旅行から個人・小グループ旅行への変化がみられます。

・高齢化の進展や医療技術の進歩に伴い、今後、増加すると予測される健康で学習意欲が高い高齢者の積極的な自由時間の使い道として、多様な選択肢の提供が求められています。

・九州は、豊かな自然やアジアとの息の長い交流により育まれた歴史・文化に恵まれ、中枢・中核都市が適度に分散し、ゆとりや癒し・自然とともに、都市的サービス等を提供する基盤があります。一方、福岡では、文化やプロスポーツなどさらに高次の魅力ある都市的サービスが提供されています。

・また、東アジアでは、アジアの文化中心都市を目指す光州広域市（韓国）、アジアでも有数の国際映画祭が開催される釜山広域市、2008年の北京オリンピック、2010年の上海万博など文化・スポーツ等に関連したまちづくりやコンベンションの開催等がみられ、地域間の国際交流が活発化していくと考えられます。

・人々の交流は、拡大・広域化しており、今後、アジアとの地理的優位性など福岡・九州が持つポテンシャルを活かすことにより、ゆとりある生活ができる環境づくりやモビリティの向上が重要となります。

#### 価値観の多様化に関連した現状と課題

##### 〈国民の価値観の多様化〉

- ・「モノの豊かさ」から『心の豊かさ』へ
- ・**ライフスタイルの変化**
- ・余暇活動に対する**旅行の潜在需要**
- ・高齢者を中心とした**余暇時間の拡大**

##### 〈福岡・九州の現状〉

- 豊かでゆとりある生活や余暇活動を支える基盤がある
- ・中枢・中核都市と自然豊かな地域が近接
- ・地域固有の歴史・文化に恵まれた地域
- ・**アジア**との近接性と息の長い交流

##### 【福岡・九州の課題】

- ・九州の特性を活かしたゆとりある生活ができる地域の実現
- ・福岡がもつ文化やスポーツなどの都市的サービスの魅力向上
- ・双方向の交流拡大に向けたモビリティの向上

##### 〈東アジアの都市の成長〉

- ・「韓国の文化首都」、「アジアの文化中心都市」を目指す**光州**（韓国）
- ・アジアでも有数の国際映画祭を開催する**釜山**（韓国）
- ・2008年にオリンピックが開催される**北京**（中国）
- ・2010年に万博が開催される**上海**（中国）

など

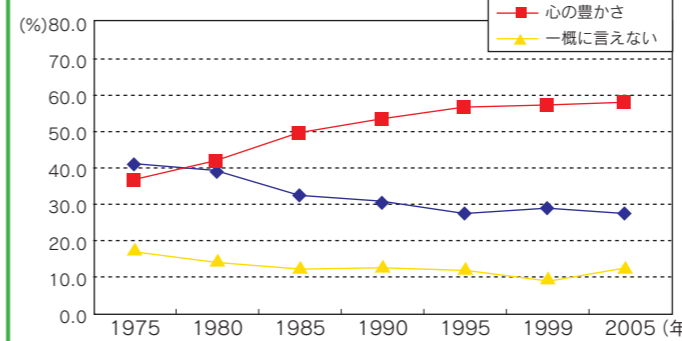
## 2. 地域の将来像の検討

④価値観の多様化

### 現状1 「モノの豊かさ」から「心の豊かさ」への価値観の転換

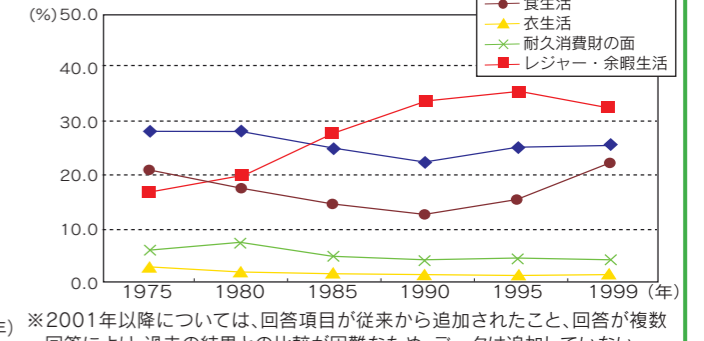
世論調査をみると、社会の成熟化に伴い、人々の価値観については、「モノの豊かさ」から「心の豊かさ」を重視する傾向に変わり、価値観が大きく変化しています。今後の生活の力点についても、「レジャー・余暇生活」を重視する傾向がみられます。

#### ■価値観の変化



資料)「国民生活に関する世論調査」内閣府

#### ■今後の生活の力点

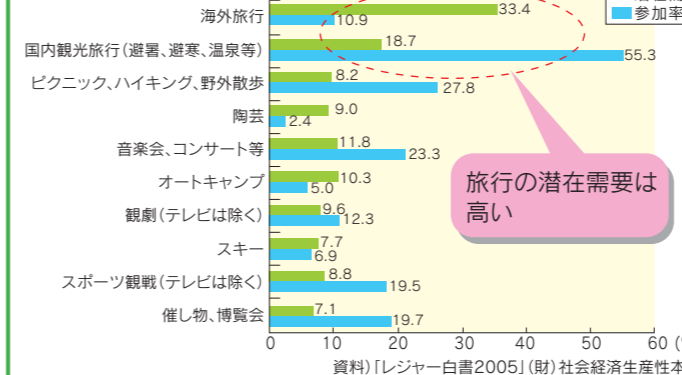


※2001年以降については、回答項目が従来から追加されたこと、回答が複数回答により、過去の結果との比較が困難なため、データは追加していない。  
資料)「国民生活に関する世論調査」内閣府

### 現状2 余暇活動の観光旅行への潜在的需要

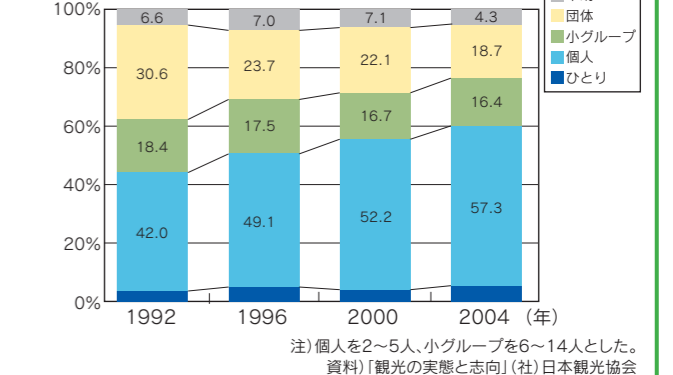
国民の余暇活動の潜在需要をみると、観光旅行は、多様な余暇活動の中で潜在需要が高い状況です。また、近年の旅行形態は、ライフスタイルの変化等により団体旅行から個人・小グループ旅行が増加しています。

#### ■余暇活動の潜在需要と参加率



資料)「レジャー白書2005」(財)社会経済生産性本部

#### ■宿泊観光旅行の同行者

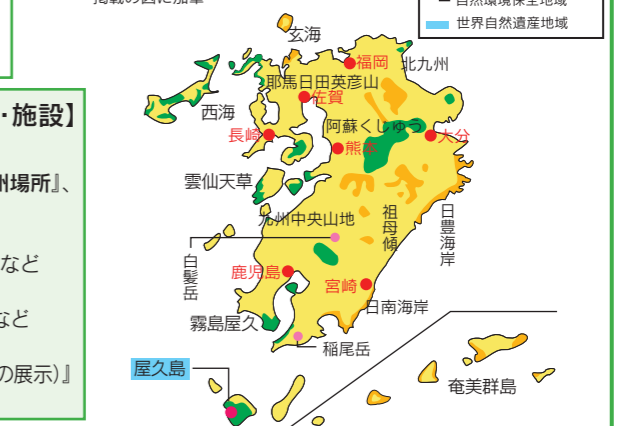


注)個人を2~5人、小グループを6~14人とした。  
資料)「観光の実態と志向」(社)日本観光協会

### 現状3 利便性の高い都市と自然豊かな地域が近接する九州

九州には、4つの国立公園や9つの国定公園が、それぞれが都市に近接して立地しており、豊かで美しい自然に恵まれています。また、福岡市を中心として様々なスポーツ・文化活動が行われており、人々の交流が拡大・広域化しています。

#### ■九州の国立公園・国定公園



#### 【福岡市での都市の魅力を提供する様々なスポーツ・文化活動・施設】

- プロスポーツ、プロオーケストラ  
『福岡ソフトバンクホークス(野球)』、『アビスパ福岡(サッカー)』、『大相撲九州場所』、『九州交響楽団』など
- 演劇  
『博多座(歌舞伎、芝居等の興行)』、『福岡シティ劇場(劇団四季の専用劇場)』など
- コンサート会場  
『アクロス福岡(福岡シンフォニーホール)』、『マリンメッセ福岡』、『福岡ドーム』など
- 美術館・博物館  
『福岡市美術館』、『福岡アジア美術館』、『福岡県立美術館』、『福岡市博物館(金印等の展示)』など



## 2. 地域の将来像の検討

④価値観の多様化

### 既存の将来ビジョン・取り組み

#### ■既存の将来ビジョンの概要

総合計画等を見ると、ビジョンでは、『高度成長期等を経て社会に一定レベルのモノが満たされ社会の成熟化を迎えたことに伴い、活力ある安定社会に向かって、精神的な豊かさやゆとりある生活といった豊かさの転換とその対応』について述べられています。

**【既存資料の主な将来像】**

- 豊かな自然と歴史風土を大切にす都市・福岡、多彩な人が集い活躍する活気創造の都市・福岡：「福岡市新・基本計画」福岡市、2003年
- 多様な選択に基づくゆとりと個性に満ちた職業生活、活発な文化・スポーツ活動によるくらしの充実：「ふくおか新世紀計画」福岡県、1998年
- 「時持ち」が楽しむ「健康寿命80歳」：「日本21世紀ビジョン」内閣府、2005年
- 安全で安心できる・ゆとりある暮らしへ：「九州・新長期ビジョン」九州地方整備局、2002年

#### ■具体的な取り組みの状況

将来ビジョンに関連して、老若男女を問わず個性的で創造的な生き方を求め、個人の選択機会が豊かになるよう様々な取り組みが行われており、余暇活動の中でも潜在需要が高い旅行関係についても、様々な取り組みが行われています。

**具体的な取り組みの例**

多様な余暇の過ごし方の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆多様な地域資源を活用した観光交流……………取り組みの事例1 ・グリーンツーリズム、エコツーリズム、産業観光など</li> <li>☆文化施設の充実……………取り組みの事例2</li> <li>☆文化・市民交流の促進(再掲)</li> <li>☆大学の公開講座などによる生涯学習への支援</li> <li>☆NPO・ボランティア活動など様々な市民活動への支援</li> </ul>
余暇活動の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆費用の低減 ・交通機関の多様な割引運賃の設定……………取り組みの事例3</li> <li>☆長期滞在型旅行の促進 ・休暇取得の促進・分散化</li> </ul>
モビリティの向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆基幹交通基盤の活用・充実(再掲) ・九州新幹線、高速道路網の整備 など</li> <li>☆公共空間におけるユニバーサルデザインの導入</li> </ul>

地域の将来像と福岡空港の役割

## 2. 地域の将来像の検討

④価値観の多様化

### 取り組みの事例1 多様な余暇の過ごし方の提供～多様な地域資源を活用した観光交流～(九州)

都市と農山漁村の共生・対流の一環として、グリーン・ツーリズムや体験農園等が全国各地で展開されており、九州でも各県で様々な取り組みが行われています。

**【グリーン・ツーリズム】**

緑豊かな農村地域において、その自然・文化・人々との交流を楽しむ、滞在型の余暇活動。都市側には余暇活動のニーズや自然回帰志向があり、村側には地域おこしニーズがあり、双方のかけ橋になる。地域資源(現存する豊かな自然や文化、施設など)や住人との交流を通じて、農村の価値や魅力を再発見し、本来の人間らしい生活・田舎暮らしに触れることができる。

資料)「田舎体験的旅行案内」(財)都市農山漁村交流活性化機構HPより抜粋

**【田舎体験的旅行】**

〈目的〉  
農業体験、林業体験、漁業体験、ふるさと生活体験、自然観察・アウトドアスポーツ体験

〈九州管内〉  
福岡県：正助ふるさと村  
佐賀県：いろは島・花と冒険の島  
長崎県：対馬・厳原の美女塚伝説  
熊本県：水の上の学校  
大分県：ヴィラ・フロレスタ  
宮崎県：山里の暮らしワーキングコース  
鹿児島県：エコツアー屋久島・奄美大島

### 取り組みの事例2 多様な余暇の過ごし方の提供～文化施設の充実～(福岡県)

福岡都市圏の太宰府市には、「東京国立博物館」・「京都国立博物館」・「奈良国立博物館」以来の国立博物館となる『九州国立博物館』がH17年10月にオープンしました。アジアと日本の文化交流に関わる展示や、アジアの「美」をテーマにした特別展が催されており、開館以来、多くの人々が訪れています。今後、国内外の文化・学術的な交流の拠点となることが期待されます。

■九州国立博物館の外観



資料) 広報だざいふ

■「美」をテーマにした特別展の開催



資料) 西日本新聞社

地域の将来像と福岡空港の役割

### 取り組みの事例3 余暇活動の促進～交通機関の多様な割引運賃の設定～(国)

航空の自由化やIT化の進展に伴い、個人旅行(FIT※等)が増大しています。特に各種割引運賃が相次いで設定され、利用者の多様なニーズに合わせた旅行が可能となってきました。

※Foreign Independent Travelの略 海外個人手配旅行のこと

■航空運賃種類の推移

～H6年度

普通運賃  
往復割引  
回数券運賃

H7年度～

普通運賃  
回数券運賃  
事前購入割引(H7.5～)  
特定便割引(H8.9～)

H12年度～

普通運賃  
往復割引  
回数券運賃  
事前購入割引  
特定便割引  
バーゲン型運賃(H12.4～)  
インターネット割引(H12.5～)  
シャトル往復運賃(H12.9～)

H13年度～

普通運賃  
往復割引  
回数券運賃  
事前購入割引  
特定便割引  
バーゲン型運賃  
インターネット割引  
シャトル往復運賃  
チケットレス割引(H13.6～)  
パスター割引(H13.7～)  
結婚記念日割引(H14.2～)  
1日乗り放題(H14.12～H15.3)  
突然割引・タイム割引(H15.4～)

資料)「第1回当面の羽田空港の望ましい利用のあり方に関する懇談会」国土交通省

2. 地域の将来像の検討

④価値観の多様化

地域の将来へのシナリオ

価値観の多様化に対処した様々な取り組みが進展した場合の「地域の将来へのシナリオ」を以下に示します。また、それと対比して、地域にとって懸念されるシナリオも併せて示します。

【地域の将来に向けたシナリオ】

- 福岡は、人口集積と高度な都市機能を活かして、文化・芸術やスポーツ分野など地域が長く育んできた魅力の提供により、さらなる人や情報の交流が進む。また、国内外を結ぶモビリティの向上により、近接した美しい自然環境、福岡の伝統・文化、そしてアジアとの密接な交流を活かした創造性豊かな都市となっていく。
- 九州は、高速交通網の整備などによる域内のモビリティの向上により、地域の特徴である温暖な気候と豊かで美しい自然、歴史、文化などを活かし、交流する人々の多様なニーズに対処できる地域となっていく。
- 福岡・九州の人々は、観光旅行やスポーツ、文化活動など様々な個々のニーズに対して選択機会に恵まれ、余暇時間を有効に活用して自己実現が可能となる。さらに、家庭・仕事・地域社会などでバランスのとれた質の高い暮らしができ、生き甲斐をもって充実した生活を送ることができる。

【福岡では】

- 多様で魅力ある都市的サービスの提供
- 国内外を結ぶモビリティの向上により近接した豊かな自然と都市の利便性を享受
- 福岡の伝統・文化とアジアとの密接な交流を活かした創造性豊かな都市
- 多様なニーズに対処でき、訪れたい・働きたい・住みたい都市へ

【九州では】

- 域内のモビリティの向上による美しい九州のポテンシャルの活用
- 交流する人々の多様なニーズに九州が一体となって対処
- 余暇時間を有効に活用できるゆとりある暮らしへ

地域にとって懸念されるシナリオ(地域の将来ビジョンが実現しない状況)

- 福岡は、国内外とのモビリティの低下などによって、徐々に人材や情報が流出し、人々を惹きつける魅力的な都市的サービスの提供が十分にできずに活気を失う。
- 九州は、九州の特徴である豊かな自然や歴史、文化等が活かされず、また不十分な交通ネットワークによる域内モビリティの低下などにより、様々な人々を惹きつけられない。

2. 地域の将来像の検討

④価値観の多様化

論点に対しての地域の将来像

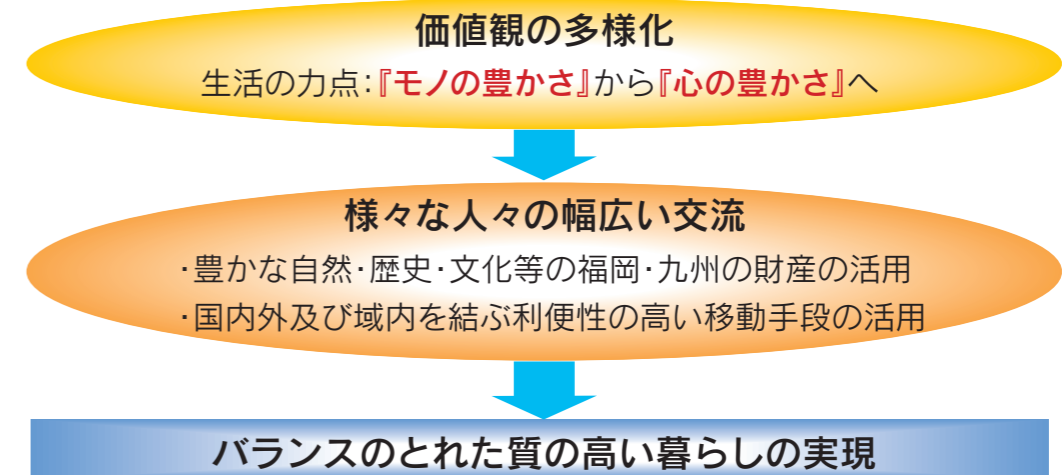
将来へのシナリオに基づき、価値観の多様化に適切に対処できた場合の地域の将来像を以下に示します。

価値観の多様化が進む中、人々や社会のニーズに対処できないと、地域の魅力は向上せず、地域は活力を徐々に失い衰退していく懸念があります。

そのため、福岡・九州は、人々の生活の力点が「モノの豊かさ」から「心の豊かさ」へと転換し、価値観の多様化が進む中、地域が持つ自然・歴史・文化などのポテンシャルを活かし、「楽しく働き、よく学び、よく遊ぶ」といった仕事・家庭・地域社会でバランスのとれた質の高い暮らしを実現するために、**様々な人々が交流し、ゆとりと豊かさを実感できる地域**の創造を目指すべきです。

【地域の将来像】 ④価値観の多様化

『様々な人々が交流し、ゆとりと豊かさを実感できる地域』



将来のイメージ

- 日本及び東アジアでの、IT化の進展や高速交通基盤の充実等が、国境を越えた交流の深化を後押しする

『表情豊かな美しい自然』  
『プロスポーツや文化、技術・芸術・学術等の匠の世界』  
『奥深く魅力ある歴史・文化』  
『賑わいのあるイベント・コンベンション』  
『新鮮で旬な食材』  
『身も心も安らぐ温泉』  
『人々を和ますおもてなし』 など

『夢や感動』『新しい出会い』『潤いや安らぎ』

▼スポーツイベント等様々な都市の魅力を提供する施設(福岡市営東平尾公園) 資料)福岡市



▼滞在型市民農園



資料)「平成17年版観光白書」国土交通省

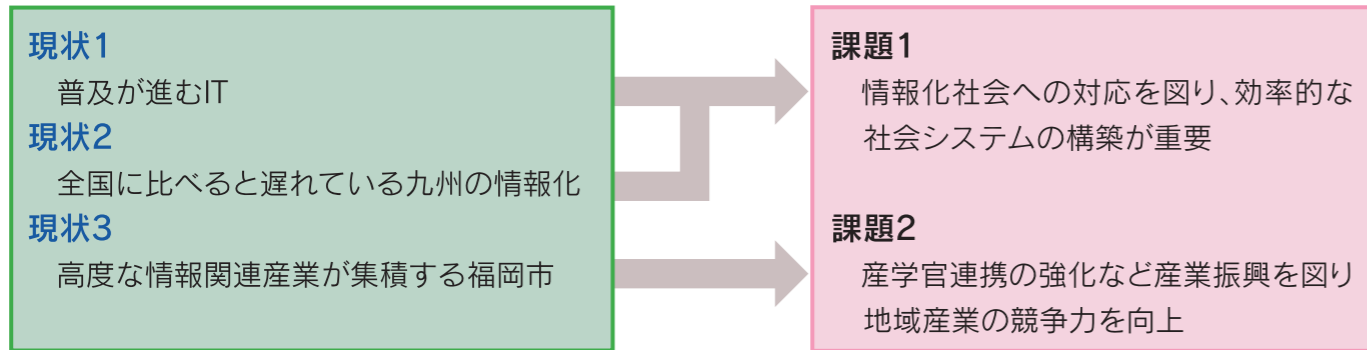


2. 地域の将来像の検討

⑤IT化(高度情報化)

⑤IT化(高度情報化)

地域の現状と課題



・情報技術の飛躍的な発達により、グローバルな規模で同時双方向の交流が実現できる社会を迎えつつあります。

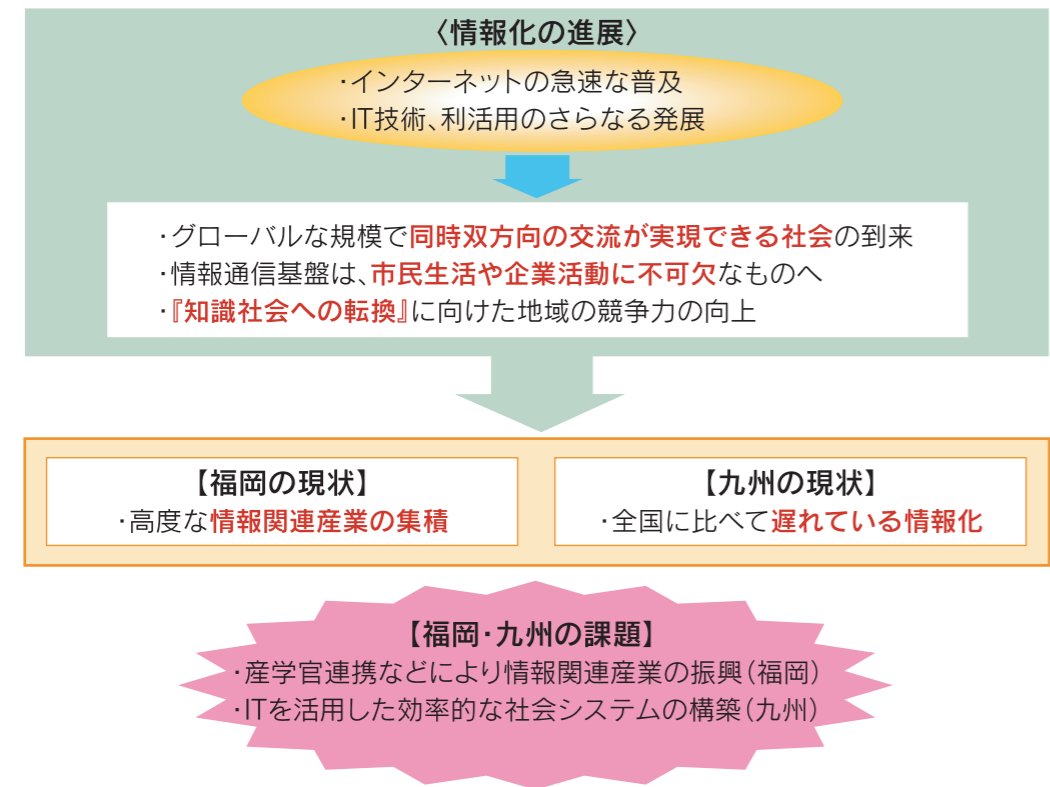
・国内ではインターネットが急速に普及し、情報化社会を支える基盤整備が進んでいます。

・今後、光ファイバー・ADSLなど多様な手段を通じて提供される情報通信基盤は、市民生活や企業活動に不可欠なものとなり、情報を活用した効率的な社会システムの構築が重要になります。

・九州の高度情報化は、全国に比べると遅れており、離島や半島の多い九州では、地理的な条件を克服する手段としてその普及が望まれます。

・福岡では、ソフトウェアなどの情報関連産業や音楽をはじめとしたデジタルコンテンツ関連産業の振興が進んでおり、今後、情報や知識・知恵、さらに創造性などが重視される『知識社会への転換』に向け、産学官の連携等により産業振興を図り、地域の競争力を一層高める必要があります。

IT化に関連した現状と課題



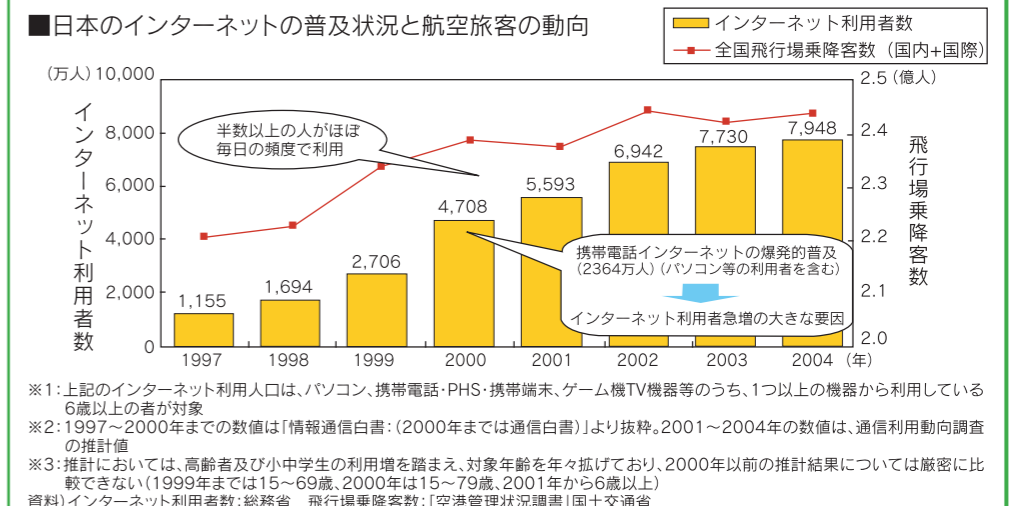
2. 地域の将来像の検討

⑤IT化(高度情報化)

現状1 普及が進むIT

日本のインターネットの普及率は、年々増加傾向にあります。パソコンからのインターネット利用者の増加に加えて、1999年より開始された携帯電話等での利用者の増加も押し上げの要因となっています。

インターネットの普及に伴う電子メールやITの活用により、一部の出張や会議の削減等も考えられますが、実際の動向をみると、今のところ、航空旅客は増加傾向にあると考えられます。この理由については、様々なことが考えられますが、可能性としては、IT化による高い生産性を実現した企業等の増大、フェイス・トゥ・フェイスによる情報交換のニーズの高まり、グローバル化や価値観の多様化による交流人口の拡大等が考えられます。



**〈企業等インタビュー〉**

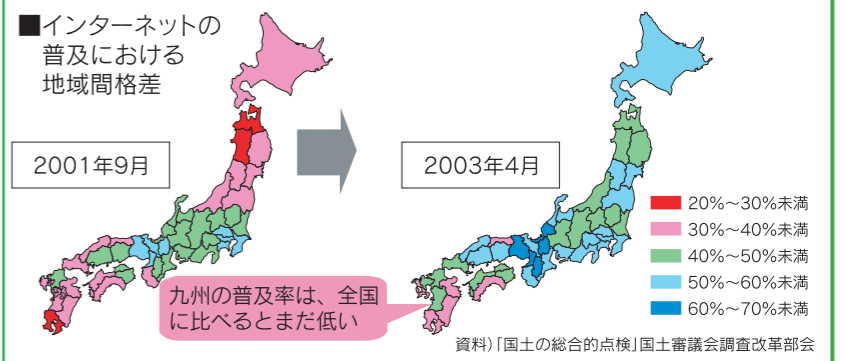
- IT化によって、情報交換が容易になっているが、商談などは、フェイス・トゥ・フェイスが基本であり、今後も人の行き来は増えていこう。(福岡支社の企業)
- テレビ会議システムを導入したが、東京などへの出張は減らない。(福岡本社の企業)

資料)「平成16年度福岡空港の社会経済的役割と効果及び将来像に関する調査」福岡空港調査委員会

現状2 全国に比べると遅れている九州の情報化

インターネット等情報通信基盤は、全国で整備されつつありますが、ブロードバンドの普及や光ファイバー網の整備など高質なサービスでは、いまだに地域格差が大きい状況です。

九州におけるインターネットの普及は、全国に比べて低い状況となっています。



現状3 高度な情報関連産業が集積する福岡市

「福岡ソフトリサーチパーク」は、シーサイドももちの情報業務施設ゾーンの一画6.3haに整備されており、国内外のコンピューターメーカー6社のビルと「福岡SRPセンタービル(ももちキューブ)」で構成されています。パーク内では、立地企業と「ももちキューブ」に入居する情報関連企業が互いに協力・交流し、アジアにおける情報関連産業の一大研究開発拠点を目標としています。



## 2. 地域の将来像の検討

⑤IT化(高度情報化)

### 既存の将来ビジョン・取り組み

#### ■既存の将来ビジョンの概要

総合計画等を見ると、今後予想される情報化社会に対して、それを支える『基盤の整備や情報の活用』について述べられています。九州では、『情報産業の集積を活かした地域産業の振興』が述べられています。

#### 【既存資料の主な将来像】

- 多彩な人が集い活躍する活気創造の都市・福岡：「福岡市 新・基本計画」福岡市、2003年
- 高度情報化時代の到来に伴うくらしの変化：「ふくおか新世紀計画」福岡県、1998年
- 「時持ち」が楽しむ「健康寿命80歳」：「日本21世紀ビジョン」内閣府、2005年
- 自立・一体的な活力ある地域へ：「九州・新長期ビジョン」九州地方整備局、2002年

#### ■具体的な取り組みの状況

将来ビジョンに関連して、高度情報化に対応し、ITを活かし効率的な社会システムの構築に向けた様々な取り組みが行われています。また、今後進展が見込まれる情報関連産業の振興についても様々な取り組みが行われています。

#### 具体的な取り組みの例

#### 情報化の基盤整備

- ☆高度な情報通信基盤整備……………取り組みの事例1
  - ・ふくおかギガビットハイウェイ (FGH)
  - ・日韓IT光コリドープロジェクト (KJCN)
  - ・インターネットデータセンター(ふくおかiDC)

#### ITの利用促進

- ☆行政・大学などの電子化
  - ・電子県庁、電子市町村
  - ・全学共通ICカードの導入(九州大学)
- ☆交通分野の電子化
  - ・自律移動支援プロジェクト
  - ・e-エアポート……………取り組みの事例2
  - ・東アジア共通ICカード……………取り組みの事例3
- ☆産業の振興
  - ・eアジアマーケットプレイス
  - ・インターネットを活用した旅行商品
  - ・物流システムの効率化

#### 情報関連産業の振興

- ☆高度な人材の育成・研究開発……………取り組みの事例4
- ☆半導体クラスターの形成
- ☆国際連携の推進
  - ・高度なIT技術を有するインドへの経済ミッションの派遣

## 2. 地域の将来像の検討

⑤IT化(高度情報化)

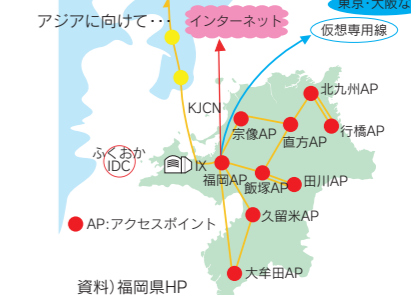
### 取り組みの事例1 情報化の基盤整備～高度な情報通信基盤整備～(福岡県)

ITの高度化が急速に進展する中で、産業の継続的発展と生活の更なる向上を実現するために、「ふくおかIT戦略」を策定し、その中で高度な情報通信基盤の整備を柱の一つとして、2.4ギガビットの大容量高速通信網「ふくおかギガビットハイウェイ」をはじめ総合的なプロジェクト展開を行っています。

#### 【高度な情報通信基盤整備の取り組み】

- ・ふくおかギガビットハイウェイ (FGH)
- ・日韓IT光コリドープロジェクト (KJCN)
- ・インターネットデータセンター(ふくおかiDC)

#### ■情報通信基盤の概要



### 取り組みの事例2 ITの利用促進～e-エアポート～(国)

成田国際空港において、関係民間企業及び成田空港会社の協力の下、ITを多面的に活用した「e-エアポート」構想の推進に取り組んでいます。航空において、IT化が進むことにより、迅速かつ快適なサービスの提供やテロ対策等安全性の向上が図られます。

#### ■e-エアポートの概要



### 取り組みの事例3 ITの利用促進～東アジア共通ICカード～(国)

国土交通省では、東アジア地域で共通に使用できる交通系ICカードの実現に向けて、シンガポール、香港、タイ及び日本国内の鉄道事業者やカード事業者等と技術面・運用面での課題に関する検討や実験を行うなど、公共交通分野のIT化に関する実践的な政策研究を進めています。今後、シームレスな国内外の交流の拡大が期待されます。

#### ■東アジア共通ICカード構想



### 取り組みの事例4 情報関連産業の振興～高度な人材の育成・研究開発～(福岡県)

高度なIT関連の人材育成について、産学官などで様々な人材育成・研究開発の場が設置されています。

#### 【高度なIT人材育成の主な取り組み】

- ・高度IT人材アカデミー (AIP)……………ITに関する最上級の技術力や知識、経験をもつ人材を養成するNPO
- ・福岡システムLSIカレッジ……………産学官の連携のもと、将来を担うシステムLSIの高度設計人材を育成
- ・九州大学システムLSI研究センター……………システムLSI技術を総合的に研究し、技術の利用の方向を明確化する



2. 地域の将来像の検討

⑤IT化(高度情報化)

地域の将来へのシナリオ

IT化に対処した様々な取り組みが進展した場合の「地域の将来へのシナリオ」を以下に示します。また、それと対比して、地域にとって懸念されるシナリオも併せて示します。

**【地域の将来に向けたシナリオ】**

- 福岡は、高度な情報関連産業の集積を活かし、産学官の連携などによって人材の集積・育成や情報通信技術の高度化を進め、アジアをはじめ世界から優れた人材を受け入れる中心的な都市となっていく。  
また、グローバル化の進展に伴い、緊密な生産・流通システムの確立や販路の拡大などITを活用した新たなビジネスの展開が可能になり、ヒト・モノ・情報等が集積する福岡は、国内外と九州各地とを結ぶ交流の拠点となり、地域全体が活性化していく。
- 情報基盤の整備やIT技術の活用が進み、九州では、離島など地理的・時間的に制約がある場所での不便な暮らしが解消され、様々なライフスタイルを生み出しながら質の高い暮らしが創造されていく。

**【福岡では】**

- 情報関連産業の集積などを活用した新たなビジネスの展開
- 人材育成や技術開発の進展
- ヒト・モノ・情報の交流の拡大により国際交流拠点都市へ

**【九州では】**

- 高度な情報基盤の整備とITの活用による効率的な社会システムの構築
- どこに住んでいても質の高い暮らしが可能

**地域にとって懸念されるシナリオ(地域の将来ビジョンが実現しない状況)**

- 福岡では、高度な情報関連産業の集積が活かされずに、高度な人材の流出や新たな技術開発が進まず、地域の情報関連産業は次第に活力を失い、地域経済の競争力が徐々に衰退していく。
- 九州では、ITの活用が十分進まず、人々の生活は地理や時間の制約を大きく受けてしまう。また、非効率な生活様式、経済活動や行政システムが残ることで、地域固有の情報を国内外に発信できない。

地域の将来像と福岡空港の役割

2. 地域の将来像の検討

⑤IT化(高度情報化)

論点に対しての地域の将来像

将来へのシナリオに基づき、IT化に適切に対処できた場合の地域の将来像を以下に示します。

**【地域の将来像】 ⑤IT化(高度情報化)**  
『ITを活かして優れた知識を創造し、国内外に情報発信する地域』

**IT化の進展**

- ・情報基盤の整備、利活用の促進、情報技術の進展 など
- ・情報通信基盤は、市民生活に不可欠なものへ

**効率的な社会システムの構築**  
グローバルな規模で同時双方向の交流が実現できる社会へ

**地域振興**  
『知識社会への転換』に向けた競争力のある地域へ

**どこでも質の高い暮らしが創造され、国内外へ向けて情報発信**

**将来のイメージ**

- IT化の進展により、
  - ・電子メールやテレビ会議等の活用による一部出張等の削減
  - ・生産性の向上や産業の拡大、広域化
  - ・個人旅行等多様な交流の拡大 など
- 福岡
  - ・産学官連携による情報関連産業の発展
  - ・研究開発、設計の拠点
- 九州
  - ・産学官連携による半導体産業の発展

『次世代産業をリード』し、地域の競争力が向上

▼情報基盤産業が集積するシリコンバレー



資料) 中小企業基盤整備機構HP

地域の将来像と福岡空港の役割

2. 地域の将来像の検討

2. 地域の将来像の検討

⑥社会資本形成

⑥社会資本形成

⑥社会資本形成

地域の現状と課題

現状1

国及び地方の厳しい財政状況

現状2

予想される社会資本の維持更新費用の増大

現状3

様々な社会資本が集積する福岡

課題1

税源不足、支出の増大に対して、健全な財政執行を行うためには、投資の選択と集中、民間の資本・ノウハウの活用への方針転換が必要

課題2

効率的な社会資本投資とその波及効果による地域全体の活力維持が必要

わが国では高度経済成長以降、国土基盤の充足に主眼が置かれ、その整備水準は着実に向上してきました。しかし、今後は、これまでに整備された国土基盤の更新が必要となり、その費用の増大が予想されます。
今後、投資の選択と集中、民間の持つ資本やノウハウの活用により、いかに効率的・効果的な社会資本整備を図るかが重要となります。
福岡には、交通基盤など様々な社会資本が既に集積し、九州の中核都市として拠点性を高めています。今後、地域が自立的に維持発展していくためには、限られた労働や資本の効率的な活用が重要となり、地域の社会資本への効果的な投資による福岡のけん引力の向上と周辺地域への波及効果の拡大が必要です。

社会資本形成に関連した現状と課題

〈社会資本形成に関連した現状と課題〉

- 人口減少に伴う税収の減少
高齢化に伴う社会福祉費用の増大
社会資本ストックの維持更新費の圧迫

【福岡の現状】

様々な社会資本が集積

【福岡・九州の課題】

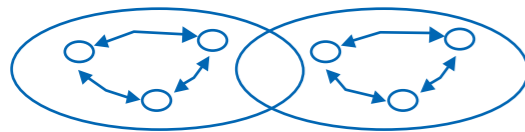
- 選択と集中による効率的な投資と民間の資本、ノウハウの活用
地域が自立するための地域の社会資本への効果的な投資

〈自立・安定した地域社会の形成に向けての今後の方向性〉

対応の基本方針：二層の「広域圏」の相互連関による自立・安定した地域社会の形成

生活圏域(生活面)

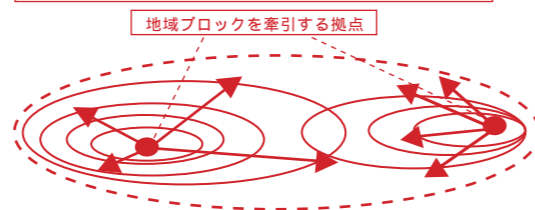
- 複数の市町村からなる圏域
圏域内での機能分担・相互補完による各種都市的サービスの維持



機能分担・相互補完

地域ブロック(経済面)

- 都道府県を越える規模の圏域
「選択と集中」の考えに基づく重点的投入



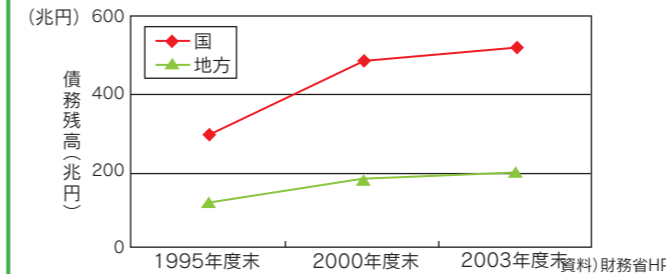
拠点からの波及効果

資料)「国土の総合的点検」国土審議会調査改革部会

現状1 国及び地方の債務残高

今後、構造改革と地方分権に伴い、債務残高の縮減が課題です。

■国と地方の長期債務残高の推移



■主な地方自治体の債務残高(2002年度末)

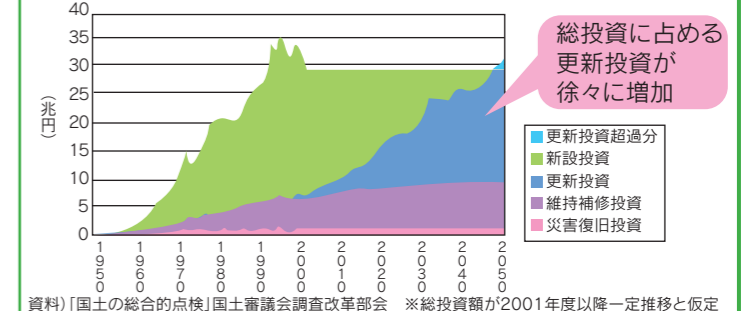
Table with columns for Prefecture/City, Debt, and Budget. Includes Hokkaido, Aichi, Osaka, and Fukuoka.

注) 都道府県の普通会計、収益事業会計、交通災害共済事業会計及び公立大学附属病院事業会計の決算、財政規模は、歳入ベース
資料)「平成15年度都道府県決算状況調」総務省「平成15年度市町村別決算状況調」総務省

現状2 予想される社会資本の維持更新費用の増大

国土交通省によれば、既存国土基盤の更新に今後必要な費用について、耐用年数が経過したストックは全て直ちに更新されると仮定して試算すると、今後更新投資が新規投資に厳しい制約を与えると予想しています。既存ストックについては、適切な点検や評価、コストなどをふまえて計画的かつ効率的な維持管理が望まれます。

■新規投資に係る制約についての試算



総投資に占める更新投資が徐々に増加

資料)「国土の総合的点検」国土審議会調査改革部会 ※総投資額が2001年度以降一定推移と仮定

現状3 様々な社会資本が集積する福岡

福岡市は、地方中核都市として、広域ブロックを対象とする行政、経済、学術・文化・教育の3つの中核的機能が集積しています。また、九州内の主要な交通基盤の結節点となっています。

■九州の交通インフラ網



- 九州の交通インフラ網の凡例: 新幹線、JR在来線、私鉄、地下鉄、高速道路、都市高速道路、その他の主要な道路



【高次都市機能の集積】

- 行政・地域ブロックを管轄範囲とする国の出先機関の集積
経済・電力やJRなどの地方ブロックを営業範囲とする地元大企業の本社や全国規模の大企業のブロックを管轄する販売・情報拠点としての支店の集積
学術・地方ブロックの高等教育や学術・研究・文化等の拠点
福岡市: 11大学(教員数 約4千5百人、在学者数 約7万7千人 ※H17.5.1時点(資料)福岡市)

人口千人当たりの学生数は、大都市中京都に次いで第2位



## 2. 地域の将来像の検討

⑥社会資本形成

### 既存の将来ビジョン・取り組み

#### ■既存の将来ビジョンの概要

国や民間の総合計画等を見ると、『国と地方の厳しい財政状況のなか、公共の縮小と地域独自の取り組みへの重点的・効率的かつ効果的な投資の重要性』について述べられています。

#### 【既存資料の主な将来像】

- 果敢に挑戦する自治と自律の都市・福岡：「福岡市 新・基本計画」福岡市、2003年
- 豊かな公・小さな官、地域主権の実現：「日本21世紀ビジョン」内閣府、2005年
- 自律的経済圏の形成：「21世紀の九州地域戦略」(社)九州・山口経済連合会、2002年

#### ■具体的な取り組みの状況

将来ビジョンに関連して、社会資本の整備は、限られた投資の中、効率的かつ効果的な投資や既存の行政システムの見直し、民間活力の導入など様々な取り組みが行われています。また、拠点性を高めるなど地域の戦略的な投資に対する取り組みも行われています。

#### 具体的な取り組みの例

#### 効率的な社会資本形成

- ☆コスト縮減対策
  - ・公共事業コスト構造改革……………取り組みの事例1
  - ・政策評価、事業評価の推進
  - ・既存ストックの適切な維持管理……………取り組みの事例2
- ☆地域の行政改革の推進(再掲)
- ☆新たな広域行政体制の検討(再掲)
  - ・道州制の検討(国の地方制度調査会での審議など)
- ☆民間活力の導入
  - ・指定管理者制度の導入
  - ・PFIの導入……………取り組みの事例3
  - ・NPO・ボランティア団体との協働

#### 地域の戦略的投資

- ☆拠点性の向上(集積の活用と深化)
  - ・知的クラスターづくり(九州大学学術研究都市)……………取り組みの事例4
  - ・基幹交通基盤の充実(再掲)
- ☆地域の特性に応じた投資
  - ・構造改革特区の推進(再掲)

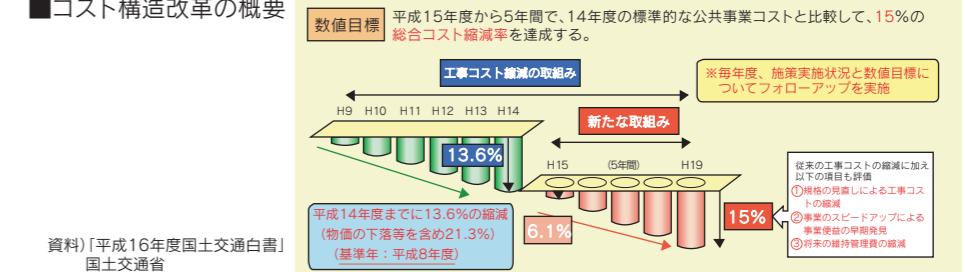
## 2. 地域の将来像の検討

⑥社会資本形成

### 取り組みの事例1 効率的な社会資本形成～公共事業のコスト構造改革～(国)

国土交通省では、総合的なコスト削減の数値目標(平成15年度からの5年間でマイナス15%)を新たに設定し、コストの観点から公共事業のすべてのプロセスを見直す「コスト構造改革」に取り組んでいます。

#### ■コスト構造改革の概要



### 取り組みの事例2 効率的な社会資本形成～既存ストックの適切な維持管理～(国、福岡市)

国土交通省では、過去に多数建設された道路構造物の更新時期の平準化、トータルコストの縮減等を目指して、道路の管理手法にアセットマネジメント<sup>※</sup>を早期に導入する等効率的・効果的な道路の維持管理に取り組んでいくこととしています。また、福岡市では、効果的な施設管理におけるコスト削減と投資の平準化を図るために、福岡市財政健全化プランにて、アセットマネジメントの導入が位置付けられています。

【国土交通省「道路構造物の今後の管理・更新等のあり方」に関する提言での「アセットマネジメント」の考え方】  
 「道路を資産としてとらえ、道路構造物の状態を客観的に把握・評価し、中長期的な資産の状態を予測するとともに、予算的制約の中でいつどのような対策をどこに行うのが最適であるかを考慮して、道路構造物を計画的かつ効率的に管理すること」という考え方。

### 取り組みの事例3 効率的な社会資本形成～PFI手法の導入～(国)

羽田空港では、再拡張事業に合わせて、新たに国際線ターミナルやエプロン等の国際定期便の就航に必要な機能を整備する必要があり、民間のノウハウを導入した効率的・効果的な施設整備や空港利用者に対するサービス水準の向上等を図る観点から、PFI手法を用いた事業の実施を予定しています。

また、関西国際空港や中部国際空港においても民間活力を導入した先進的な取り組みが行われています。

#### ■羽田空港再拡張事業の事業方式の概要

	ターミナル事業	エプロン事業
整備内容	国際線ターミナルビル、駐車場等	エプロン、構内道路等
事業内容	国際線ターミナルビル等の建設・運営	エプロン等の建設・維持管理
事業方式	独立採算制 (国費は投入せず、事業者がPSFC(旅客取扱施設使用料)やテナント料等収入等により施設整備費等を回収する。)	サービス購入型 (国が施設整備費等の対価を支払う。平成17年度以後、30年間の国庫債務負担を予算化する。)
事業期間	30年(平成17年度～46年度)	同左
事業者の選定方法	公募型プロポーザル (基本的には、ターミナル運営面を中心に評価、選定)	総合評価一般競争入札 (エプロン等の施設整備費を重視して選定)

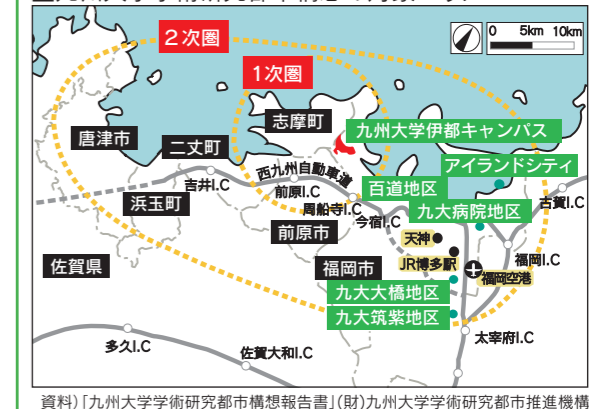
資料)国土交通省HP

### 取り組みの事例4 地域の戦略的投資～九州大学学術研究都市の整備～(国、福岡県、福岡市)

「九州大学学術研究都市構想」は、福岡・佐賀両県のアジアとの連携を強く指向した九州北部学術研究都市(アジアス九州)構想や九州大学の先導的学術改革と新キャンパス移転といった一連の動きを総合的・立体的にとらえ、21世紀の「知の時代」に相応しい地域を目指すものです。

九州大学を核に世界レベルの研究パークや知的生活環境を有する21世紀型の新たな学術研究都市づくりを行い、「アジア・世界の知的拠点」を目指すもので、新キャンパスは、平成17年10月より一部開校し、福岡の学術研究としての拠点性が高まっていくと考えられます。

#### ■九州大学学術研究都市構想の対象エリア



2. 地域の将来像の検討

⑥社会資本形成

地域の将来へのシナリオ

社会資本に関連した様々な取り組みが進展した場合の「地域の将来へのシナリオ」を以下に示します。また、それと対比して、地域にとって懸念されるシナリオも併せて示します。

【地域の将来に向けたシナリオ】

- 国・地方の財政が厳しい状況の中、既存の制度・システムの見直しや道州制など新たな行政システムの構築による行政のスリム化、適切かつ効果的な維持管理による既存の社会資本の有効活用及び民間活力の導入などによって、多様化するニーズに対するサービスがきめ細かに提供され、公共は民間で対応できないサービスに集中し、国・地方の財政はスリム化の方向に向かう。
- 福岡がもつ競争力は、既存の社会資本の活用や効率かつ効果的な投資を行いながら、戦略的な充実を一層図ることにより、国内外での競争力は、他地域に比べて高いものとなる。
- 九州は、成長するアジアをターゲットにした地域独自の国際展開のもと、国際交流基盤の充実にあたって、厳しい財政状況を背景に、公共投資の選択と集中や民間活力の導入により、最も効率的かつ効果的な社会資本形成を図っていく。

【福岡・九州では】

- 財政のスリム化、適切に維持管理された既存ストックの有効活用、民間活力の導入
- 九州は自立し、最も効率的かつ効果的な社会資本形成が図られる
- 東アジアの中で福岡が、競争力のある九州を先導する都市へ

地域にとって懸念されるシナリオ(地域の将来ビジョンが実現しない状況)

- 国・地方の財政が厳しい状況の中、過去に作られた制度やシステムが障壁となって民間活力の導入も進まず、多様化するニーズに対して画一的な平等主義のもと効率性に欠けた公共サービスが提供され、サービスレベルは低下し無駄が拡大し、財政は悪化する。
- 九州では、非効率な投資により競争力の高い拠点の形成が進まず、地域の競争力が低下していく。

地域の将来像と福岡空港の役割

2. 地域の将来像の検討の前提

⑥社会資本形成

論点に対しての地域の将来像

将来へのシナリオに基づき、社会資本形成に適切に対処できた場合の地域の将来像を以下に示します。

戦略のない社会資本形成が続くと、地域の魅力は低下し競争力を失い、地域全体が衰退していく懸念があります。そのため、福岡・九州は、厳しい財政状況の中でも地域が持続的に発展するために、効率的な行政システムへの移行と、「選択と集中」の観点のもとに多様な手法・主体によって最も効率的・効果的に行う**戦略的な社会資本形成により、グローバルな競争力をもつ地域**の創造を目指すべきです。

【地域の将来像】 ⑥社会資本形成

『戦略的な社会資本形成によりグローバルな競争力をもつ地域』

- ・行政の構造改革やスリム化などによる『財政の健全化』
- ・福岡がもつコンパクトで高次の『都市機能の活用』
- ・民間資本の活用や優れたノウハウの活用などの『民間活力の積極的な活用』

『最小の投資、最善の時期、効率的な手法』により、  
『最大限の効果・便益』を地域へ

戦略的な社会資本形成  
「選択と集中」による社会資本の形成によって、  
地域の国内外での競争力の向上

将来のイメージ

- 地域の多様なニーズに対応するために、戦略的・効率的な社会資本のマネジメント(管理、運営、投資)を行い、最適な行政サービスを提供。

【想定されるマネジメント】

- ・ライフサイクルマネジメント
- ・リスクマネジメント
- ・財務分析
- ・総合的な評価
- ・利用者や住民からの意見収集、反映 など

▼民間の資金やノウハウが活用された中部国際空港



資料)常滑市HP

地域の将来像と福岡空港の役割



2. 地域の将来像の検討

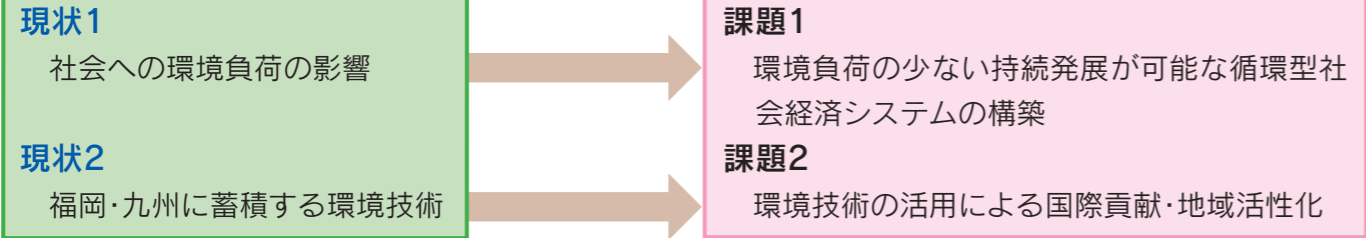
2. 地域の将来像の検討

⑦環境重視

⑦環境重視

⑦環境重視

地域の現状と課題

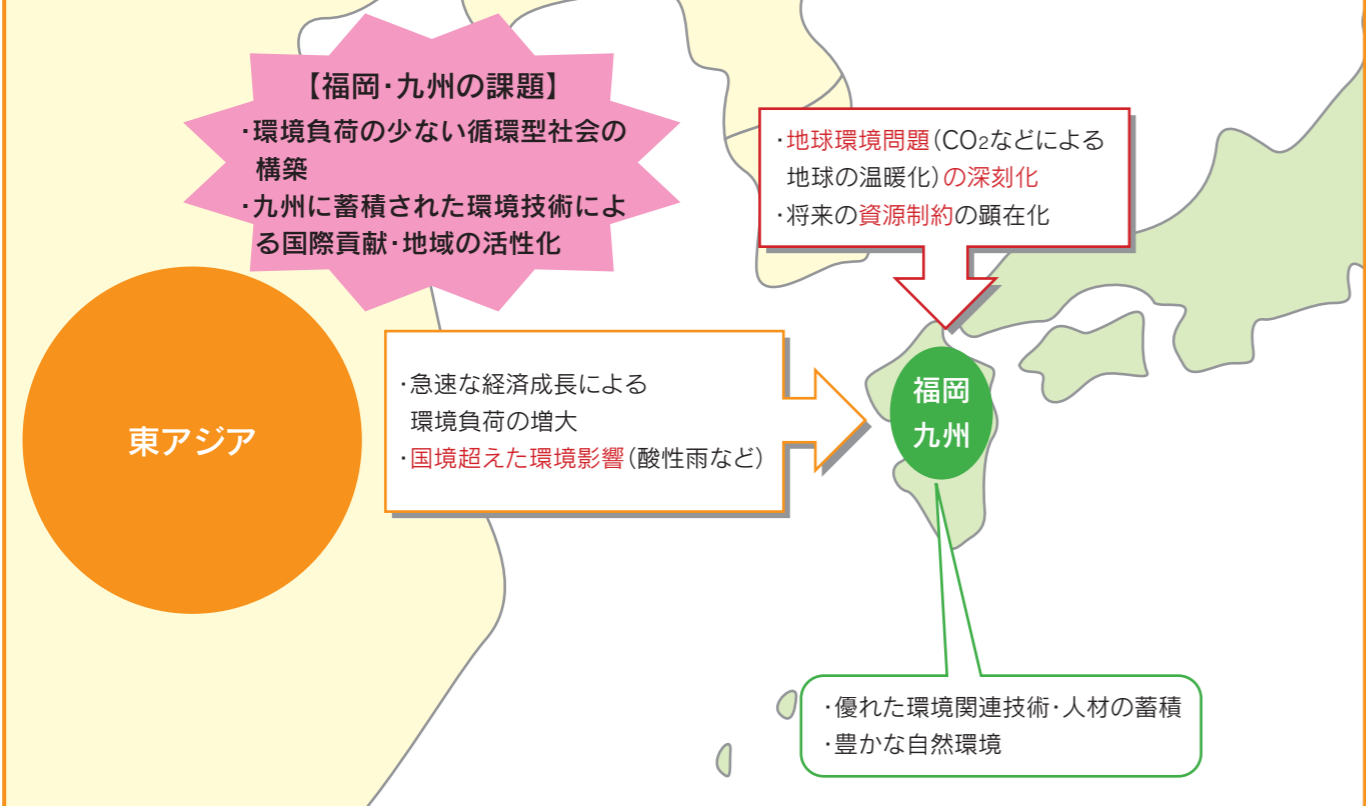


・地球温暖化やオゾン層の破壊などの地球規模に及ぶ環境問題や近い将来の様々な資源制約が、今後の大きな課題になっています。また、東アジアの経済成長に伴う地域社会の環境負荷の増大が心配されます。従って、今後は、東アジアの地域全体で、環境負荷の少ない持続可能な社会・循環型社会への転換が求められています。

・福岡・九州の美しい自然環境は、国土保全や水源涵養などの面で重要な役割を果たすとともに、観光や農林水産業等の地域産業の基盤となっています。美しく強い国土を保つためには、社会資本整備においても、環境への影響が少なくなるよう配慮する必要があります。

・先進国などの大量生産・消費・廃棄型の社会システムや一部の発展途上国にみられる資源消費型の急速な経済成長などによる環境への様々な負荷の増大に対して、九州は、公害克服の歴史と循環型社会への先進的な取り組みを活かして、環境面での国際貢献を行うことが求められています。

環境重視に関連した現状と課題

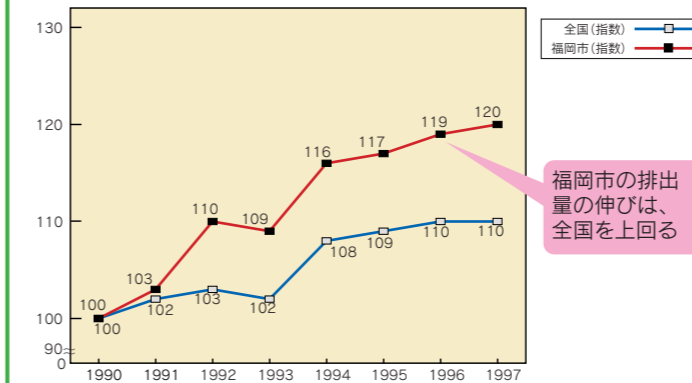


現状1 社会への環境負荷の影響～地球規模での環境問題・資源制約～

地球温暖化がこのまま進めば、100年後には海面が最大90cm近くも上昇と言われており、温暖化の原因の一つと考えられる二酸化炭素の排出量は増加傾向にあります。特に、福岡市の排出量の伸びは、全国を上回るスピードで増加しています。全国における排出源をみると、大半が産業からとなっており、運輸関係は、約2割になっています。

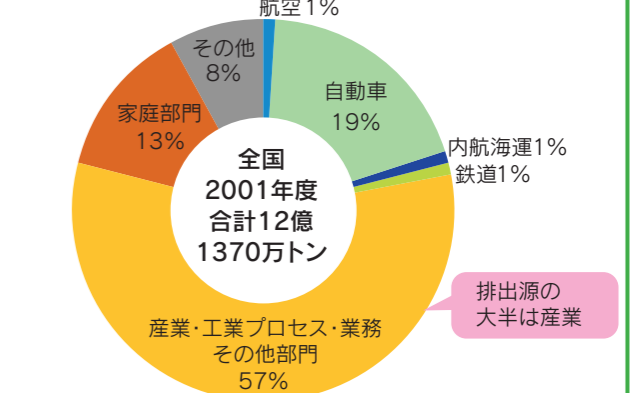
また、地球温暖化問題と密接に関係するエネルギーについて、国際エネルギー機関の見通しによれば、2030年の世界の一次エネルギー需要は、世界人口の増加や経済成長に伴い、2000年と比べて約66%増に達すると予測され、エネルギー供給源の多様化や省エネルギーの推進が求められます。日本では、新幹線をはじめとした充実した鉄道と航空との競争により、運賃の低減やサービスの向上が図られており、福岡と関東・東海・関西間の移動手段をみると、距離の短い移動ほど環境負荷の低い鉄道輸送の割合が高くなっています。

■二酸化炭素排出量の推移



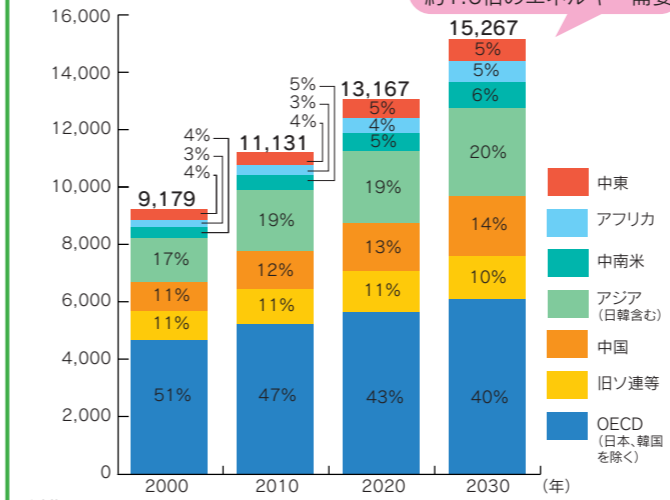
注:指標は1990年の実績値を100とした場合の指数  
資料)第2次福岡市地球温暖化対策地域推進計画

■全国の二酸化炭素排出源



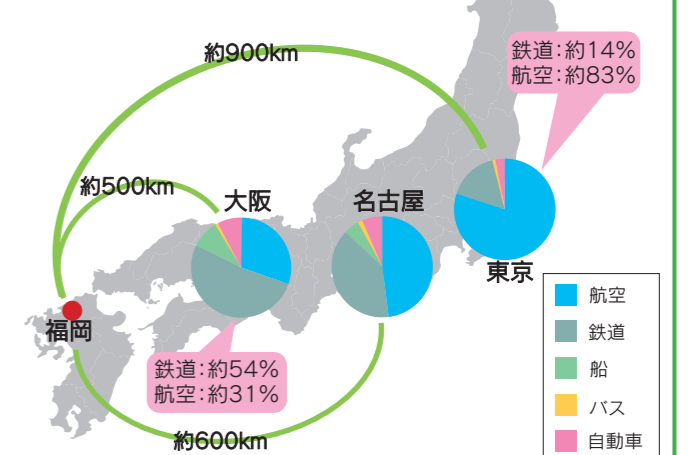
資料)国土交通省「運輸部門の地球温暖化対策について」より

■世界のエネルギー需要見通し



資料)IEA「World Energy Outlook 2002」

■都道府県間流動(代表交通機関別)



※距離は直線距離  
資料)全国幹線旅客純流動調査(2000年)

現状2 福岡・九州に蓄積する環境技術

九州は、過去に公害克服への努力を積重ねた歴史があり、産業公害防止技術等に関する技術が集積するとともに、リサイクル等循環型社会への先進的な取り組みも進み、研究者・技術者等の人材が豊富です。

経済成長が著しい中国をはじめとした東アジアでは、産業公害・都市環境の悪化が著しく、環境保全対策は急務となっており、地域の国際貢献が求められます。また、環境リサイクル産業にとっては、東アジア地域全体が有望な市場の一つとも考えられます。

【九州の環境・リサイクル産業の市場】

1998年:2.3兆円(全国21.6兆円)  
↓  
2010年:3.9兆円(全国34.1兆円)に拡大すると予想。

資料)「九州地域環境産業ビジョン」九州経済産業局

## 2. 地域の将来像の検討

⑦環境重視

### 既存の将来ビジョン・取り組み

#### ■既存の将来ビジョンの概要

総合計画等を見ると、『九州の美しい自然環境が保全され、日常の諸生活環境と共生していく社会を構築し、次世代へ引き継いでいく』ことが述べられています。  
また、環境に関連した技術開発を通じて、『今後経済成長が見込まれる海外へ国際貢献』することも述べられています。

#### 【既存資料の主な将来像】

- 豊かな自然環境と歴史風土を大切に作る都市・福岡：福岡市新・基本計画「福岡市、2003年
- かけがえのない地球環境を守る暮らし、美しく潤いのあるまちでの暮らし：「ふくおか新世紀計画」福岡県、1998年
- 開かれた文化創造国家：「日本21世紀ビジョン」内閣府、2005年
- 環境と共生した循環型社会へ：「九州・新長期ビジョン」九州地方整備局、2002年

#### ■具体的な取り組みの状況

将来ビジョンに関連して、自然環境や地球環境、社会環境に関する様々な取り組みが官民を問わず行われています。また、環境関連産業の振興に関する取り組みも行われています。

#### 具体的な取り組みの例

##### 循環型社会への対応

- ☆環境保全への対応
  - ・環境アセスメントの実施……………取り組みの事例1
  - ・環境に配慮した事業活動の推進 (ISO14001、環境会計など)
- ☆廃棄物等の発生抑制への対応
  - ・産業廃棄物税の導入……………取り組みの事例2
  - ・建設リサイクルの推進
  - ・循環資源の国境を越えた移動への対応
- ☆環境負荷の低減
  - ・モーダルシフトの推進
  - ・グリーン購入
  - ・省エネルギーの推進
- ☆環境教育
  - ・普及啓発活動の推進

※空港に関連した取り組みは、「福岡空港の役割の検討」(P57以下)で述べる。

##### 環境関連産業の振興

- ☆九州環境クラスターの形成……………取り組みの事例3
- ☆環境技術の海外技術移転……………取り組みの事例4

地域の将来像と福岡空港の役割

## 2. 地域の将来像の検討

⑦環境重視

### 取り組みの事例1 循環型社会への対応～環境アセスメントの実施～(国、福岡県、福岡市)

周辺の自然環境、地域生活環境などに影響を与える可能性のある大規模事業については、事業者がその影響を調査・予測・評価する必要があります。  
平成18年2月末時点において、空港事業では、「東京国際空港再拡張事業」などにおいて環境アセスメントの手続きが実施されています。

#### 【環境影響評価法による環境アセスメントの対象事業】

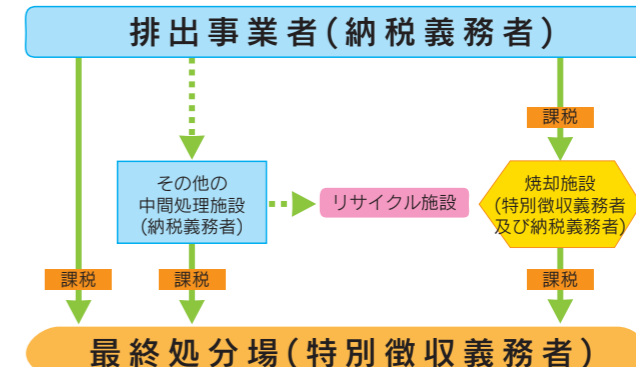
- 飛行場の場合
  - ・第1種事業(必ず環境アセスメントを行う事業)：滑走路延長2,500m以上
  - ・第2種事業(環境アセスメントが必要かどうか個別に判断する事業)：滑走路延長1,875m～2,500m

資料)環境影響評価情報支援ネットワークHP

### 取り組みの事例2 循環型社会への対応～産業廃棄物税の導入～(福岡県)

福岡県では、平成17年4月より、「産業廃棄物税」を導入し、産業廃棄物の排出抑制とリサイクルの促進を図っています。また、税収を環境政策の財源に充てることにより、循環型社会づくりに向けた取り組みを進めています。

#### ■産業廃棄物税のしくみ



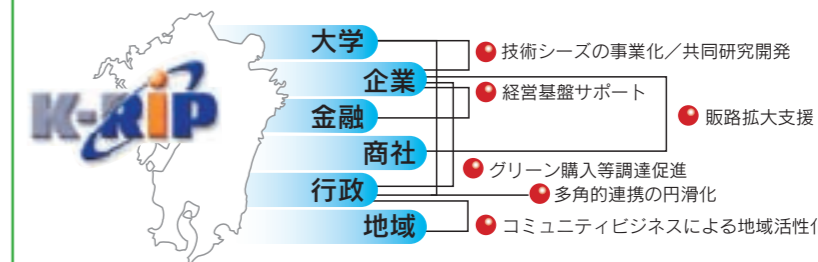
資料)福岡県HP

### 取り組みの事例3 環境関連産業の振興～九州環境クラスターの形成～(九州)

九州では、環境ビジネスを育成・振興し、新規産業を創出することにより地域経済の活性化を図ることを目的に、産学官の横断的組織である「九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ(K-RIP)」が設置されています。

#### ■九州環境クラスターの概念

産学官の横断的ネットワークによるクラスター形成



資料)九州地域環境・リサイクル産業交流プラザHP

### 取り組みの事例4 環境関連産業の振興～環境技術の海外技術移転～(福岡市)

福岡市は、福岡大学と共同で、運用コストが低く、運営・管理が容易な「福岡方式」と呼ばれるゴミ処理方式を開発し、海外にも技術支援を行っています。

#### 【「福岡方式」に関する『中華人民共和国精華大学』との技術協力協定の締結：H15.11】

福岡市は、中華人民共和国の精華大学の要請により、「福岡方式」に関する技術協力協定を締結した。福岡市は、「福岡方式」が中国で普及することにより、経済発展と共に増大している環境問題の解決に貢献できると考えている。

資料)福岡市HP

地域の将来像と福岡空港の役割



2. 地域の将来像の検討

⑦環境重視

地域の将来へのシナリオ

環境重視に対処した様々な取り組みが進展した場合の「地域の将来へのシナリオ」を以下に示します。また、それと対比して、地域にとって懸念されるシナリオも併せて示します。

【地域の将来に向けたシナリオ】

- 福岡では、効率的で環境負荷の少ないコンパクトな都市構造・土地利用を維持していく。また周辺に残る自然環境への配慮と都市機能の向上のバランスをとり、魅力あふれる都市となっていく。
- 九州に残る良好な魅力ある自然環境は、グリーンツーリズムやエコツーリズムなどによる交流人口の拡大や農林水産業の振興などによる活用と適切な保全がバランス良くなされ、質の高い環境に育まれた生活水準が保持されて、次世代に引き継がれていく。
- 環境負荷を低減するために開発された高度な技術や先進的な取り組みは、地域の環境をより良くするだけでなく、地域を支える新たな産業となり地域経済の活性化の一翼を担うとともに、経済発展が進み環境面で課題を有するアジアなどの諸外国に対して、その技術を積極的に広め、国際貢献が推進されていく。

【福岡・九州では】

- 自然環境の保全・活用、安全・安心の社会環境の確保、都市機能の向上とのバランスに配慮
- 都市の発展と環境への配慮が好循環して、魅力が向上した地域・都市へ
- 人々は質の高い生活水準を保持し、豊かな自然環境は次世代へ継承
- 環境負荷低減の高度な技術や先進的な取り組みを活かした国際貢献

地域にとって懸念されるシナリオ(地域の将来ビジョンが実現しない状況)

- 九州そして福岡がもつ魅力ある自然環境と都市化のバランスが崩れ、自然環境、都市環境がともに荒廃し、人々の暮らしに豊かさや潤いがなくなっていく。
- また、地域が持つ環境負荷低減の技術や取り組みの進展がなく、地域の活性化に役立たせることが出来なくなる。

地域の将来像と福岡空港の役割

2. 地域の将来像の検討

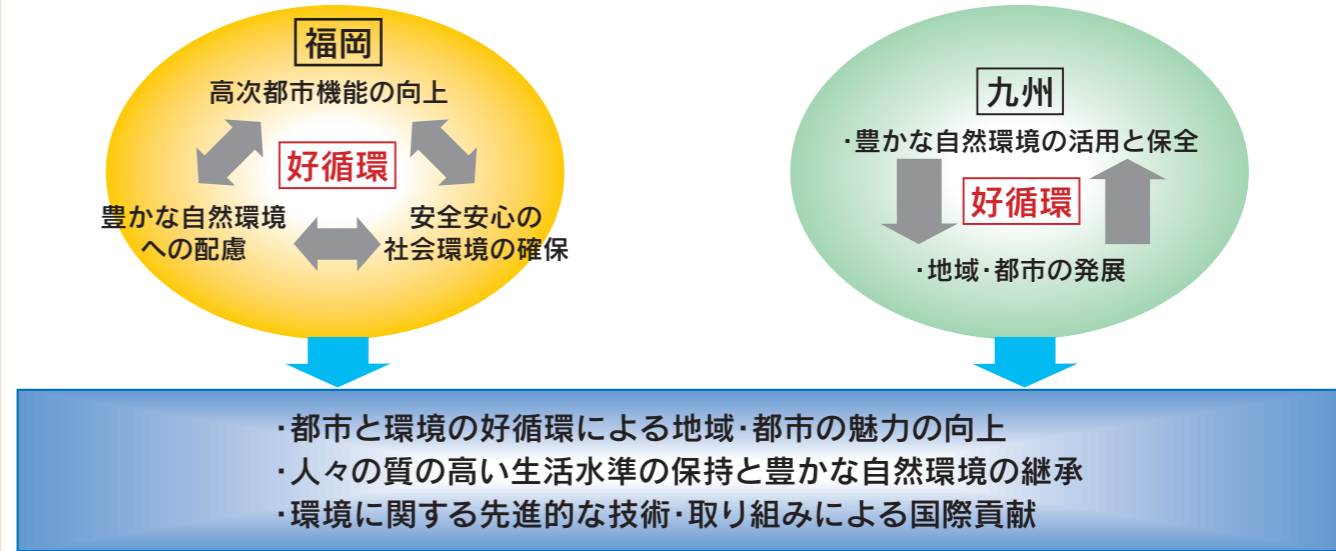
⑦環境重視

論点に対しての地域の将来像

将来へのシナリオに基づき、環境重視に適切に対処できた場合の地域の将来像を以下に示します。

環境対策が、都市の発展と一体的に取り組まれない場合は、地域を取りまく自然環境と都市環境のバランスが徐々に悪化し、人々の質の高い生活水準や地域の魅力は徐々に失われていく懸念があります。そのため、福岡・九州は、都市機能の向上とともに、地域の豊かな自然環境の保全や地球的な環境問題への対策に先進的に取り組み、**都市の発展と環境への配慮が好循環した持続可能な地域**の創造を目指すべきです。

【地域の将来像】 ⑦環境重視  
『都市の発展と環境への配慮が好循環した持続可能な地域』



将来のイメージ

都市の発展と環境への配慮 → 『環境負荷の少ない循環型社会』



▲博多湾に浮かぶ豊かな自然環境 (能古島) 資料) 福岡市HP



▲福岡都心に集積する高次都市機能



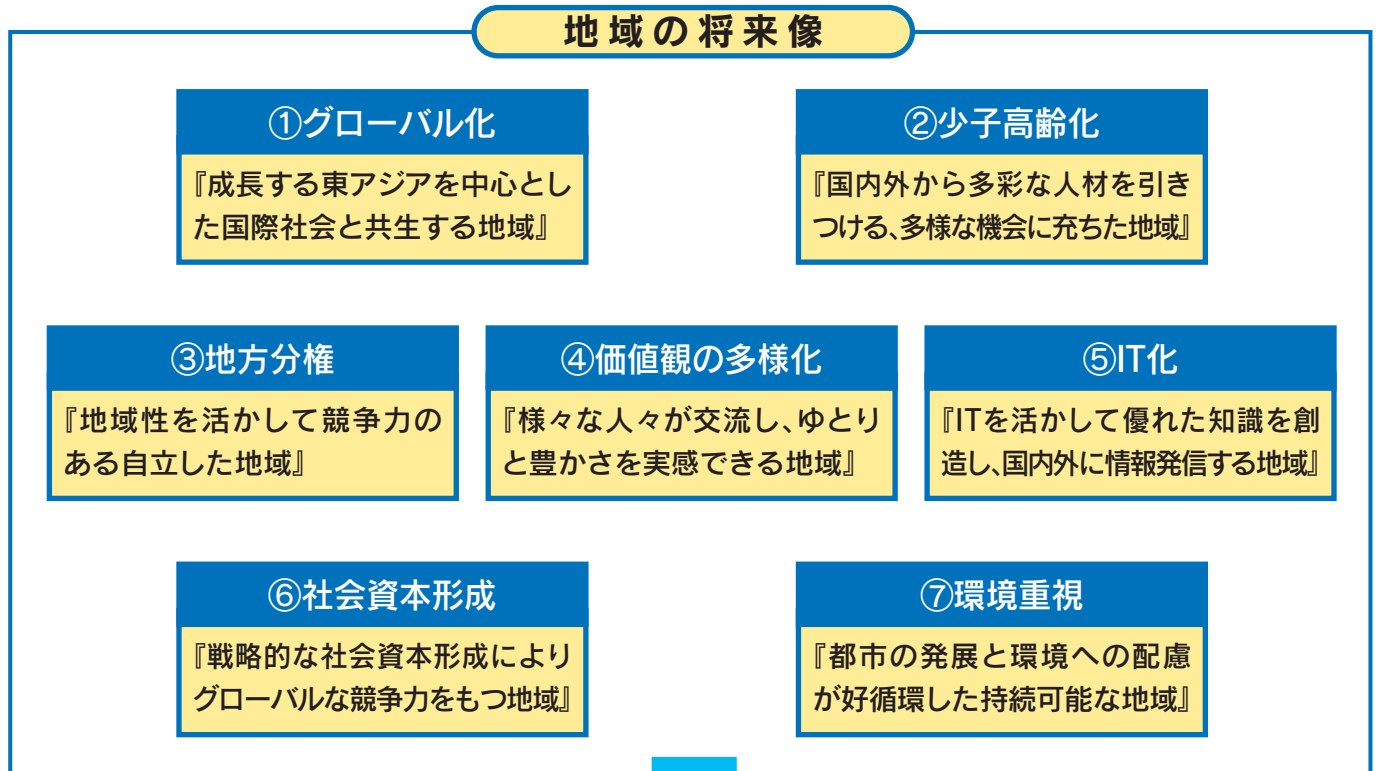
▲資源・エネルギーの有効利用を推進する良好な社会環境 ((株)福岡グリーンエナジー東部工場)

地域の将来像と福岡空港の役割

## 2. 地域の将来像の検討

## 4) 地域の将来像

前述した論点毎の将来像をふまえて、地域の将来像を以下に示し、福岡と九州の姿をまとめました。



## 地域の姿

『福岡』は、二千年余の歴史あるアジアとの交流や中世博多の自治都市の歴史と進取の気概など良き伝統を受け継ぎながら、グローバル化、少子高齢化等の大きな変化を前向きに受け止め、IT化など新時代の技術や地域が持つ学術・文化を深めながら、魅力あふれる都市環境を持ちつつ、高度な都市機能を活かしたコンパクトシティを形成していきます。さらに、国内外からヒト・モノ・情報等が集積し、活気に充ちた創造性豊かな『交流拠点都市』に成長し、福岡の成長は、経済や生活面など様々な分野において九州全体に波及していきます。

『九州』は、地域の自立が求められる中、東アジアとの『地理的優位性』、ものづくり産業等をはじめとした様々な『産業集積・技術』や豊かに保全された『美しい自然環境』など九州の個性ある特徴を活かしていきます。時代の様々なニーズに、地域が主体となつて的確・迅速に対処することで、地域の魅力や競争力が向上していきます。国内外からヒト・モノ・情報など様々な交流を受け入れ、地域内を循環することで地域の持続的な発展が可能となり、人々の暮らしが安定していきます。